同	四百海里	四四、四〇〇	「ジヤーデンマデソン」商會	同年八月一日英船「マシヨナ」號ニテ長崎ニ入港シ八月十九日納入濟	
中間線	八十海里	一四、二五六	同右	同右	
淺海線	二十海里	七、七〇〇	同右	同右	
一心入百三十所 深海線	九百海里	一〇一、二五〇	同右	三十八年六月二十一日英船「インデヤンモナーク」號ニテ長崎ニ入港シ七月一日納入濟同月陸軍ニ保管轉換	
同中間線	八十海里	一四、三七六	同右	同右	
同淺海線	二十海里	七、七三〇	同右	同右	
「コンパー」二百所「ジーピー」深海線	五十海里	七、九七五	同右	同年九月二十七日英船「プリントシヤイナ」號ニテ長崎ニ入港シ十月八日納入濟	
同中間線	二十海里	四、二二〇	同右	同右	
同淺海線	十海里	四、五八九	同右	同右	
「コンパー」百三十所「ジーピー」深海線	七百二十海里	九九、〇七二	同右	同右	
同中間線	八十海里	一六、五六〇	同右	同右	
同淺海線	四十海里	一五、一九〇	同右	同右	
合計	二千九百二十海里	三九二、九五〇			
備考	三十七年八月二回ニ納入セシモノハ豫メ納入者ト物品納入前開戰トナリシ時ハ協定ノ上相當ノ追給ヲナスヘク約シタルニヨリ前者ニハ八百三磅十四志ヲ追給シ後者ニハ千三十二磅十七志ヲ追給セリ				

第二章　有線電信

第一節　開戰前ヨリ旅順陷落ニ至ル期間ニ於ル電信線路ノ施設

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第一目　佐世保八口浦間及ヒ嚴原馬山浦間ノ敷設

明治三十六年十二月、日露兩國間ノ交渉、益々危機ニ切迫スルヤ、海軍々令部ハ、遞信省ト内議シ、佐世保ヨリ鎮海灣及ヒ八口浦ノ兩地ニ至ル海底電線ヲ敷設センカ爲メ、當時横濱ニ碇泊中ナル遞信省海底電線敷設船沖繩丸ヲシテ、急速長崎ニ回航セシムルコトヽナシ、同船ハ奄美大島、德ノ島間及ヒ馬關海峽ノ海底電線修理ノ名義ヲ以テ、同三十日横濱港ヲ拔錨シ、三十七年一月二日長崎ニ著シ、竊ニ佐世保、八口浦間海底電線敷設ノ準備ニ著手ス、

同四日、山本海軍大臣ハ、大浦遞信大臣ニ左ノ照會ヲ爲ス、

時局ノ趨勢ニ鑑ミルニ九州及ヒ對馬島ト韓國トノ間ニ軍用海底線ヲ敷設シ通信ノ敏活ヲ計ルコトハ焦眉ノ急ナルヲ認メ候ニ付右敷設方貴省ヘ委託致度別紙敷設要領相添ヘ此段及照會候也

（別紙）

敷設要領書

第一線（佐世保及ヒ八口浦線）

一、肥前國佐世保電信局ヲ起點トシ陸路相ノ浦ニ出テ夫ヨリ水底線ニ依リ黑島ノ北方及ヒ古志岐島附近ヲ經テ韓國巨文島ニ陸揚ケシテ再水底線ニ依リ所安島ノ南方及ヒグレ水道ヲ經テ八口浦内玉島ニ達ス

第二線（嚴原及ヒ馬山浦線）

一、對馬國嚴原ヲ起點トシ陸路豆酘ニ至リ夫ヨリ水底線ニ依リ韓國巨濟島ト其ノ北東ニ在ル利湖島トノ間若クハ其ノ附近ヲ經過シ一度巨濟島冠浦附近ニ陸揚ケシテ同島廣池末附近ヨリ再水底線ニ依リ蠶島及ヒ實里島ノ各西南ヲ經テ漆原半島ノ南部適宜ノ地點ニ陸揚ケシ陸線ヲ以テ馬山浦ニ達ス

本項ノ場合ニ於テハ巨濟島松眞附近ニ中繼局ヲ設ク

大浦遞信大臣ハ、以上ノ照會ニ應シ、同六日、梶浦遞信技師ニ命スルニ、電線敷設船沖繩丸ヲ以テ、急速之ヲ施行スヘキヲ以テス、同日山本海軍大臣ハ、水路部々員布目海軍少佐ニ命スルニ、同船ニ便乘シ、該電線ノ敷設ヲ祕密且迅速ニ完成スルカ爲メ諸官憲トノ交渉竝ニ一般事業ノ監督ヲナスヘキヲ以テシ、又別ニ、東鄕聯合艦隊司令長官ニ電訓スルニ、軍艦明石ヲ同船ニ附シ出發セシムヘク、其ノ任務ニ就テハ、布目海軍少佐ヨリ直接聽取シ、同少佐ト協議ノ上、任務ニ服セシムヘキヲ以テシ、鮫島佐世保鎭守府司令長官ニ電訓スルニ、布目海軍少佐ヨリ、船體ノ塗替、船首附著物ノ被覆及ヒ陸上用天幕ノ貸渡等要求アラハ、成ルヘク便宜ヲ與フヘキヲ以テシ、同十日、外務大臣男爵小村壽太郎ニ照會スルニ、布目海軍少佐ヨリ要求アラハ、成ルヘク便宜ヲ與フル樣、在木浦帝國領事ヘ電訓セラレンコトヲ以テス、

同十日、東鄕聯合艦隊司令長官ハ、前記電訓ニ基キ、明石艦長海軍中佐宮地貞辰ニ左ノ訓令ヲ與フ、

其ノ艦ハ明十一日沖繩丸ト共ニ出發シ八口浦附近ニ至リ同船ノ海底電線敷設事業ヲ護衞ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヘシ

此ノ任務中終始外國船舶ノ行動ニ注意シ沖繩丸ノ作業ヲ窺知セラレサル爲メ適當ノ偵察及ヒ警戒ヲ行フヲ要ス

航海及ヒ通信規約等ニ就テハ沖繩丸乘組布目海軍少佐ト協議決定スヘシ

沖繩丸ノ作業結了スルトキハ同船ヲ護衛シテ佐世保ニ歸航スヘシ

是ヨリ先キ、布目海軍少佐ハ、一月七日東京ヲ出發シ、其ノ途上、梶浦技師ト協議シ、沖繩丸ニ電報スルニ、成ルヘク九日中ニ長崎ヨリ佐世保ニ回航シ得ル樣準備スヘキコトヲ以テシ、同九日午前長崎ニ著シ、直ニ同船ニ乘組ミ、同日午後佐世保ニ回航シ、佐世保鎭守府參謀長海軍大佐上原仲次郎ニ向ヒ、至急船體ノ塗替、船首電纜走出部ノ被覆物製作、陸上天幕、五大力船等借入ノ交渉ヲ爲シテ其ノ承諾ヲ得、又第一艦隊參謀長海軍大佐島村速雄及ヒ宮地明石艦長ト、護衛艦明石ノ任務ニ關スル協議ヲ爲シ、同十日梶浦技師ト共ニ相ノ浦ニ到リ、海底電線陸揚地點ノ位置ヲ選定シ、明石ト航海中ノ規約信號ヲ定メ、同艦ヨリ信號兵二名ヲ沖繩丸ニ移乘セシメ、同日夕、船體ヲ黑色ニ塗替ヘ、船名ヲ富士丸ト假稱シ、船首ノ艤裝物ハ終夜工事ヲ行ヒ、翌十一日未明完了シタルヲ以テ、同日午前九時五大力船ヲ曳キ、明石ト共ニ出港シ、相ノ浦南部三年ケ浦附近ニ投錨シ、直ニ電纜ノ陸揚ケヲ始メ、午後一時頃結了シ、同十二日午前零時相ノ浦ヲ出港シ、六海里半ノ速力ニテ電纜ヲ敷設シツヽ、黑島ノ南端ヨリ古志岐燈臺ノ北東側ヲ經テ、巨文島ニ向ヒ、明石ハ前方約十海里ニ在リテ警戒航行ス、此ノ日天氣快晴ニシテ、海上波穩ニ、途上遙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ二三商船ノ航行スルヲ認メ、何等ノ異狀ナカリシニ、午後五時頃ヨリ天候險惡ノ徵ヲ呈シ、風浪漸ク荒シ、午後九時頃、巨文島ノ南側ニ近ツキ、暗中辛ウシテ、距岸約二海里ノ處ヲ沿航シ、電纜ニ少シク餘裕ヲ存シテ、明石ニ嚮導セラレ、太郎島ノ北側ヲ過キ、强雨ヲ冒シテ、所安島ノ南側ニ向フ、

翌十三日午前六時頃、濃霧來襲セシヲ以テ、已ムヲ得ス電纜ヲ曳キタル儘、青山島、所安島間ノ沖合二十七尋ノ處ニ假泊シ、午前九時頃ニ至リ、霧漸ク霽レ天候回復セシヲ以テ、直ニ拔錨シ、速力ヲ增シテ約七海里トナシ、目的地ニ向フ、此ノ時、所安島内ニ一商船ノ航行スルヲ認ム、

同日午後一時、長竹水道ニ入リ、同四時頃、兩得島ト主三島トノ中央ヲ航シ、丁燈海ニ入リ、同五時、惑水道ノ入口附近ニ投錨シ、電纜ヲ切斷シ、其ノ端ニ浮標ヲ附シテ投入シ、明石ハ同處ニ碇泊シ、沖繩丸ハ直ニ拔錨シテ木浦口ニ向ヒ、同七時頃同沖合ニ投錨シ、傳馬船及ヒ「カッター」ニ玉島陸上用通信機ヲ積込ミ、午後八時頃、小蒸氣艇ニテ之ヲ曳キ、布目海軍少佐ハ、梶浦技師及ヒ技師浦田周次郎（沖繩丸乘組）ト共ニ、工夫數名ヲ率ヰ、暗ヲ冒シテ木浦ニ向ヒ、同南角ニ於テ、日本語ニ通スル韓國舟夫ニ出會シ、之ヲ水先案内トシテ木浦ニ著シ、荷車五輛ヲ雇ヒ、機械ヲ領事館ニ預ク、時ニ午後十一時ナリ、是ニ於テ布目海軍少佐ハ、領事若松菟三郎ト、玉島ニ陸揚ケスヘキ電線端ノ祕密的保護及ヒ電柱ノ格納、竝ニ其ノ番人等ニ關スル協議ヲ爲シ、玉島ニハ、巡査一名ニ別ニ雇入レタル日本船夫三名ヲ附シ、漁船ニ乘組ミ陸揚地ノ傍ニ在リテ、通信員ノ來著スル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

マテ、晝夜韓人ニ對スル注意ヲ爲サシメ、若シ必要アラハ、陸上ニ假藁小屋ヲ設ケ、此ノ内ニ起臥セシムルコトヽシ、電柱四十本ハ、五大力船ヲ雇ヒ之ニ積込ミ、木浦ノ前面ニ在ル高下島内ナル我カ海軍測量船等ヲ預ケアル場所ニ於テ、測量用材料ト稱シテ祕密ニ收藏スルコトヽ爲シ、一旦沖繩丸ニ歸リ、翌十四日午前七時半頃、小蒸氣艇ニテ、電柱ヲ搭載セル五大力船一隻、傳馬船三隻、「カッター」一隻ヲ曳キ出發ス、然ルニ時恰モ逆潮ニ際シ、進行スルコト極テ遲々タリ、午前九時頃木浦港口ニ達セシニ、潮流ノ速度約六七海里ヲ下ラス、潮時ヲ待ツコト二時間有餘、猶遡航スルコト能ハサルヲ以テ、五隻ノ被曳船ヲ達里泊ニ留メ、汽艇ニテ沖繩丸ニ歸リ、同船ヲ達里泊地ニ回航ス、

斯テ布目海軍少佐ハ、同日午後二時頃悉ク電柱ヲ五大力船ニ移シ、之ヲ高下島ニ向ハシメ、其ノ他ノ諸艇ハ之ヲ沖繩丸ニ引揚ケ、直ニ出港シ、午後五時三十分明石ノ附近ニ投錨シ、宮地明石艦長ト惑水道内危險物ノ標識竝ニ電線接續信號等ニ就キ協議シ、翌十五日午前七時拔錨シ、惑水道東側ヲ沿航シ、八時頃玉島北東端ヨリ約一鏈ノ處ニ碇泊シ、先ツ巡査及ヒ船夫ヲ遣シ、韓人ノ近寄ルヲ制止セシメツヽ、電纜ノ陸揚ケニ著手シ、午前十一時頃結了シタルヲ以テ、陸上ニ天幕ヲ張リ、技師、技手及ヒ工夫ヲ殘シ、試驗準備ニ著手セシメ、沖繩丸ハ直ニ拔錨シ、漲潮ニ遡航シテ敷設進航シ、惑水道ヲ出テ、前ニ投下セル浮標ノ傍ニ假泊シ、電線ノ兩端ヲ接合シ、午後五時玉島、相ノ浦間ノ通信試驗ヲ行ヒシニ、良好ナル結果ヲ得、乃チ茲ニ佐世保、八口浦間電信線ノ敷設完結ス、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

翌十六日、伊東海軍軍令部長ノ命ニ依リ、陸上線ノ建設ハ見合スコト、ナリタルヲ以テ、布目海軍少佐ハ、陸上諸員ヲ收容シ巡査及ヒ番人ヲ殘シ、沖繩丸ハ、同日午後八時過キ拔錨シ、明石ノ先導ニ依リ佐世保ニ向ヒ、同十七日午後五時佐世保ニ歸著ス、（明石ノ護衛報告ハ備考文書ニ在リ）

是ヨリ先キ、佐世保郵便局ヨリ、相ノ浦海底電線陸揚地ニ至ル陸上電線ハ、長崎郵便局之ヲ架設シ、已ニ一月十二日竣成セリ、

二月五日、露國トノ外交關係斷絶シ、艦隊ニ發進命令下ルト共ニ、山本海軍大臣ハ、東鄕聯合艦隊司令長官ニ電訓スルニ、速ニ佐世保、八口浦間ノ電信連絡ヲ開通セシムヘキヲ以テス、依テ同司令長官ハ、同日宮地明石艦長ニ左ノ口達命令ヲ與フ、

一、其ノ艦曩ニ沖繩丸ヲ護衛シ佐世保玉島（八口浦）間ニ敷設隱蔽セル電纜ノ通信ヲシテ急速完成セシムルカ爲メ卽時遞信技師數名ヲ便乘セシムルニ付乘艦次第直ニ急航スヘシ又玉島電信所ノ假設ニ就テハ諸官吏ニ十分ノ便宜ヲ與フヘシ途中若シ露艦ニ會セハ臨機ノ處置ヲ施スト同時ニ交戰權ヲ與フ

一、佐世保ニ集中セル全艦隊（第一第二艦隊附屬艦船艇共）ハ明六日出發シ七日午後二時頃シングル島ニ集合スヘキニ依リ貴官ハ之ニ會合シ得ル時刻迄玉島ニ在リテ電信ヲ受領シ之ヲ三笠ニ致スヘシ

右ノ訓令ニ基キ、遞信省通信屬堀越千春、同佐治大助、同技手佐々木正章外一名ハ、明石ニ便乘シ、同艦ハ、聯合艦隊ノ出發ニ先タツ一日、二月五日午後十時三十分、佐世保軍港ヲ出發シ、速力

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ十五海里トナシ、曩ニ沖繩丸ノ敷設セシ電纜敷設面ノ異狀及ヒ露艦ノ動靜ニ注意シツ、、翌六日午後二時三十五分八口浦内玉島ノ西側ニ碇泊シ、玉島ニ電信所設備材料ヲ陸揚ケスルト同時ニ、便乘セル通信技手ヲ上陸セシメ、直ニ機械ヲ据附ケ、通信試驗ヲ行ヒタルニ、午後四時好結果ヲ以テ通信ヲ開始シタルニ依リ、之ヲ山本海軍大臣及ヒ鮫島佐世保鎮守府司令長官ニ報告シ、又兵員ヲ派シテ陸上ノ假設備ヲ爲サシム、同夜聯合艦隊ニ宛テタル電報二十餘通ヲ受領シ、翌七日午前十一時過キ出港シ、シングル水道ニ於テ聯合艦隊ニ合ス、

是ヨリ先キ、嚴原及ヒ馬山浦間通信工事ニ要スル陸線材料ハ、大阪郵便局ヨリ供給シ、其ノ運搬ハ、海軍ニ於テ之ヲ擔任スルコトヽナリ、三十七年一月七日、山本海軍大臣ハ、運送船武陽丸乘組海軍中尉松山廉介ニ左ノ訓令ヲ與フ、

其ノ官ハ大阪ニ於テ遞信省官吏ト協議シ電線架設材料約九千四百三十五立方尺工夫十八竝ニ人夫三十人ヲ搭載シ對州ニ急行シ嚴原及ヒ豆酘ニ右材料ノ一部ヲ陸揚ケシテ更ニ竹敷要港ニ回航シ後命ヲ待ツヘシ但大阪ヲ出港スルトキ嚴原及ヒ豆酘ノ任務ヲ終リタルトキ竝ニ竹敷要港ニ入港シタルトキハ其ノ都度電報スヘシ

尙本件ニ關スル詳細ノ事項ハ軍務局ニ就キ令ヲ受クヘシ

依テ武陽丸ハ、同日門司ヨリ大阪ニ著シ諸材料ヲ搭載シ、同十二日早朝大阪ヲ拔錨シ、同十三日嚴原ニ著シ、材料ノ一部ヲ陸揚ケシテ、翌十四日豆酘ニ回航シ、同所ニ所要ノ材料ヲ陸揚ケシタル後、門司ヲ經テ、同十七日竹敷要港ニ到著シタルニ、同二十九日、山本海軍大臣ヨリ、便乘中

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ遞信省官吏竝ニ人夫、其ノ他電線架設ニ關スル材料等、總テ之ヲ沖繩丸ニ移シ、速ニ佐世保軍港ニ回航シテ、聯合艦隊司令長官ノ命ヲ受クヘキ旨ノ電訓ニ接ス、依テ松山海軍中尉ハ、同船ニ搭載セル材料其ノ他一切ヲ當時同港碇泊中ノ沖繩丸ニ移シ、其ノ任務ヲ了ヘ、同三十日佐世保ニ回航ス、

沖繩丸ハ、曩ニ佐世保、八口浦間海底電線ノ敷設ヲ了リ、佐世保ニ歸著後、直ニ長崎ニ回航シ、嚴原、馬山浦間電信線敷設ノ準備ヲ爲セシニ、一月二十四日、山本海軍大臣ハ、布目海軍少佐（佐世保八口浦間ノ敷設ヲ終ヘ一月二十三日歸京セリ）ニ命スルニ、對州豆酘灣ト鎭海灣トノ間ニ於テ、前回ノ如ク、沖繩丸ニテ海底電線ヲ敷設スヘキヲ以テス、仍テ沖繩丸ハ、同二十五日長崎ヨリ門司ニ回航シ、同少佐ハ直ニ出發シテ門司ニ至リ、二十六日之ニ乘組ミ竹敷ニ到リ、同二十七日技師ト共ニ豆酘灣ノ電線陸揚地視察ニ赴ク、而テ同灣ノ東部率土ケ濱ハ、比較的礫石少ク、且波浪ノ侵入稀ニシテ、適當ナルヲ認メ、此ノ地ヲ陸揚點ニ選定シ、同二十九日山本海軍大臣ノ命ニ依リ、運送船武陽丸ヨリ、松眞、馬山間陸上電線諸材料、竝ニ技手、工夫、人夫等ヲ沖繩丸ニ移シ、後命ヲ待チシニ、二月五日午後三時三十分、同大臣ヨリ、豫定ノ如ク、豆酘、巨濟島、馬山浦間電線敷設ニ著手スヘク、其ノ施行ニ關シテハ、細谷第三艦隊司令官ノ區處ヲ受クヘシ、トノ命令ニ接セシヲ以テ、第三艦隊司令官海軍少將細谷資氏ト會シ、同六日ヨリ著手ノコトニ決定シ、翌六日午前七時、沖繩丸ニ由リ、竹敷要港部知港事ヨリ借入レタル大傳馬船二隻ヲ曳キ、竹敷要港ヲ出發シ、正午豆酘灣ニ著シ、直ニ陸揚工事ニ著手シタルニ、同船ト陸岸トノ距離遠キカ爲メ時間ヲ費セシモ、午後六時結了シ、試驗

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ結果良好ナリシヲ以テ、午後十一時巨濟島ニ向フ、是ノ速力平均六海里、天氣快晴ニシテ海上平穩ナリキ、翌七日午前九時利湖島ノ南方ニ假泊シ、電線ヲ切斷シ、之ニ浮標ヲ附シテ海中ニ投シ、汽艇ヲ以テ利湖島水道ノ水深ヲ測ラシメ、同船ハ冠浦ニ至リ、陸揚地點ヲ捜索セシモ、適當ノ地ナキヲ以テ、其ノ北隣ナル宮農灣宮農里ノ海岸ヲ選定シ、午後一時三十分陸揚ケニ著手シ、同三時過キ之ヲ了リ、次テ陸上ノ電柱其ノ他材料ヲ陸揚ケシ、技手、工夫等ヲシテ上陸セシメ、午後五時拔錨航進シテ敷設ヲ始メ、利湖島、巨濟島間ノ狹水道ヲ通過シ、曩ニ設置セシ浮標ノ位置ニ假泊シ、電線ヲ接合シ、午後九時過キ試驗ヲ行ヒ、良好ナル結果ヲ得、宮農灣ニ至リテ泊ス、而テ翌八日午前七時、更ニ電柱ノ一部ヲ陸揚ケシ、技手、工夫等ヲシテ上陸セシメ、午前九時廣池末內側ニ投錨シ、電線陸揚地點ヲ選定シタル後直ニ拔錨シ、漆原半島ノ端、雪津洞ノ左方ニ於テ、陸揚地點ヲ選定シ、同十一時三十分ヨリ電線ノ陸揚ケニ著手シ、午後一時完了シタルヲ以テ、實里島及ヒ蠶島ニ接近シテ、電線ヲ敷設シ、廣池末ノ豫定地ニ至リ、陸揚ケニ著手シ、午後五時頃完結シ、試驗良好ナルヲ以テ、直ニ馬山浦ニ回航シ、電柱及ヒ諸機械類ノ保管竝ニ通信員ノ配置ニ關シ、領事及ヒ郵便局長ト協議シ、同九日、陸上電柱約五百本其ノ他諸材料器械等ヲ馬山郵便局ニ陸揚ケシテ、再松眞沖ニ至リ、馬山ヨリ來レル二名ノ通信員通譯ヲシテ上陸セシメ、材料等ヲ陸揚ケシ、且海門艦長海軍中佐高橋守道ニ向ヒ、通信竝ニ陸線工事ニ關シ依賴スル所アリ、此ノ日、宮農里ヨリ松眞ニ至ル陸上電線工事完成ス、

斯テ沖繩丸ハ、同日正子、松眞沖ヲ拔錨シ、同十日午前七時對馬豆酘灣ニ投錨シ、率土ヶ濱ニ殘

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シアリシ通信員、及ヒ器械等ヲ收容シ、海上線ト陸上線トヲ接合シ、午前九時半出港シテ、同日午後五時佐世保ニ歸著ス、而テ豆酘陸揚地及ヒ嚴原、竹敷間ノ電線架設ハ、長崎郵便局ニ於テ之ヲ行ヒ、已ニ一月中ニ完成シタルヲ以テ、嚴原郵便局ヨリ鎭海灣松眞ヲ經テ馬山ニ至ル電信連絡ハ茲ニ完成ヲ告ク、

又漆原半島陸揚地ヨリ馬山浦ニ至ル、四里十七丁餘ノ陸上電線架設ハ、大阪郵便局派出技手監督ノ下ニ、二月二十一日ヲ以テ竣工ス、

第二目　京城牙山間ノ架設

東鄕聯合艦隊司令長官ハ、開戰劈頭、敵艦隊ヲ旅順口及ヒ仁川ニ擊破シテ後、聯合艦隊ノ主力ヲ一時牙山灣ニ集合セシメ、二月十一日ヲ以テ更ニ第二次ノ行動ヲ開始シ、其ノ第四戰隊（新高缺ク）第九、第十四艇隊及ヒ水雷母艦春日丸ヲ牙山內澳ニ進メ、漢江口ノ警戒ニ任シ、又ユーゼニー島內ヲ測量シテ、航路浮標ノ設置ニ任セシメシニ、同錨地ニハ、電信ノ連絡ナキヲ以テ、瓜生第二艦隊司令官ハ、已ムヲ得ス大島ヲ仁川ニ碇泊セシメ、每日水雷艇一隻ヲシテ、牙山、仁川間ヲ往復セシメ、以テ通信連絡ヲ圖リシモ、不便多キヲ以テ、同司令官ハ、伊東海軍軍令部長ノ命ニ依リ、當時仁川ニ滯在中ナル韓國公使館附吉田海軍少佐ニ、平澤ヨリ牙山澳古溫浦ニ至ル、陸上電線ノ架設ヲ委託ス、

依テ吉田海軍少佐ハ、同十三日其ノ人員材料ニ就キ、先ツ仁川方面ヲ搜索セシニ、我カ郵便局ニハ、長サ僅ニ五里許ノ電信線アルノミニシテ、電柱其ノ他ノ材料ナキヲ以テ、十四日夜京城ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

歸リ、翌十五日韓國駐箚隊司令官陸軍歩兵中佐齋藤力三郎ト内議シ、其ノ部下電信隊ノ貯藏セル材料ノ多寡ヲ調査スルト同時ニ、京城郵便局長田中次郎及ヒ京釜鐵道永登浦停車場建設所長伊藤隆三郎等ニモ諮リ、各有スル所ノ電信線架設材料工夫等ヲ調査シタルニ、現存セルモノ左ノ如シ、

電信隊

八番電信線	百十把（一把四百五十米突）	碍子	五百個	其ノ他消耗品多數

京釜鐵道會社

八番電信線	三十把	十六番鐵線	六把	碍子 若干
通信技手	二	人夫等	五十	

郵便局

電信技手	一

以上ノ材料ヲ混用セハ、振威、古溫浦間（瓜生司令官ノ旨ヲ受ケタル森山參謀ヨリ吉田少佐ヘノ照會ニハ平澤古溫浦間トアルモ平澤ハ京城ヲ距ル遠クシテ材料ヲ運搬スルニ不便ナルノミナラス之ヲ振威ヨリスルニ比シ距離延長シ工事亦困難ナルヲ以テ振威ヲ起點トナセリ）ノ架設ハ、之ヲ行フヲ得ルモ、何レモ電柱材料ヲ有セサルヲ以テ、吉田海軍少佐ハ、人ヲ四方ニ派シ之ヲ求メシモ得ス、已ムヲ得ス、所在松林ヲ截伐シテ電柱ニ代用スルノ決心ヲ爲セシニ、會京城ナル白耳義公使館ノ新築工事ヲ受負ヒタル日本一商人、長サ二十尺乃至三十尺、徑四五寸ノ杉丸太、七八百本ヲ所有スルヲ聞知セルヲ以テ、乃チ同人ニ之カ供給及ヒ植柱工事ヲ命ス、是ニ於テ、吉田海軍少佐ハ更ニ京釜鐵道會社ノ永登浦、振威間

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ架設セル電信線一條ヲ以テ、全ク我カ軍用ニ供セシムルコト、竝ニ材料運搬ノ爲メ、貨車ヲ臨時運轉セシムルコト等ヲ同社ニ交渉シ、又山本海軍大臣ニ向ヒ、永登浦郵便出張所ニ軍用通信所ノ名稱ヲ附スルコトヲ、遞信大臣ニ交渉セラレンコトヲ電請ス、（振威古溫浦間落成ノ上ハ古溫浦ヨリ發スル電報ハ振威ヲ經テ一旦永登浦ニ來リ同所ヨリ更ニ京城ニ轉電シ各目的地ニ到達セシム）

斯テ電信架設ノ準備ハ既ニ整ヒタルモ、吉田海軍少佐ハ、當時事務多端ニシテ、自ラ之ヲ監督スル能ハサルヲ以テ、該工事ノ實施ヲ齋藤韓國駐箚隊司令官ニ委託セシニ、同司令官ハ、陸軍砲兵大尉永島大夫ニ、之カ一般ノ監督ヲ命シ、同大尉ハ、翌十六日諸般ノ材料ヲ運搬シ、同十七日工ヲ起シ、同二十一日午後八時頃竣工セシモ、試驗ノ結果不通ノ箇所アリシヲ以テ、修理ノ後、翌二十二日午後二時ヲ以テ通信完成セリ、

古溫浦ハ、牙山灣ニ於ル著名ノ一渡船場ナルヲ以テ、吉田海軍少佐ハ、同軍用通信所經由ノ著發電報宛名規約ニ於テ、古溫浦ヲ「コヲン」トナシ、且其ノ中間ノ取扱者ヲシテ、其ノ地名ナルカ、人名略符ナルカヲ判別セサラシメンカ爲メ、必ス京城ヲ經過セシムルコトヽシ、次テ同二十五日、同少佐ハ、新設電信線ノ保管及ヒ其ノ通信取扱ヲ陸軍ニ委託ス、

爾來聯合艦隊ヨリ內地ヘノ通信ハ、主トシテ八口浦線ニ依リシト雖モ、又時々此ノ京城牙山線ニ由レリ、而テ作戰ノ進行上、聯合艦隊ハ、根據地ヲ海州邑錨地ニ前進シ、同地八口浦間ニ、海底電線ノ連絡成リ、本線ハ陸軍ニ於テ他ニ轉用スルノ必要ヲ生セシヲ以テ、吉田海軍少佐ハ、東鄕聯合艦隊司令長官ノ承諾ヲ得テ、四月十一日之ヲ撤去ス、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三目　八口浦於青島海州邑錨地間ノ敷設

佐世保ヨリ八口浦及ヒ鎮海灣ニ至ル海底電線ハ、本節第一目ニ述ヘシカ如ク、三十七年一月及ヒ二月上旬既ニ竣工ヲ告ケタルヲ以テ、山本海軍大臣ハ、現在電線ノ數量ニ應シ、更ニ遠ク旅順方面ニ向ヒ、通信系路ヲ延長スルノ必要ヲ認メ、先ツ於青島ニ無線電信所ヲ建設シ、八口浦ヨリ同島ニ至ル海底電線ノ敷設計畫ヲ建テ、三十七年二月十一日大浦遞信大臣ニ其ノ敷設ノ委託ヲ照會セシニ、遞信省ニ於テ調査ノ結果、各種ノ舊線ヲ集メ接續使用スルトキハ、小乳嶽角迄延長シ得ルノ豫算確立セシヲ以テ、山本海軍大臣ハ、玉島通信所ヲ起點トシ、海底電線ニ依リ、小乳嶽角五叉鎮又ハ國村附近ニ達セシメントシ、大浦遞信大臣ニ照會スル所アリシヲ以テ、横濱碇泊中ノ沖繩丸ハ、大浦遞信大臣ノ命ニ依リ、八口浦、於青島間ニ要スル電線ヲ搭載シ、二月十九日、於青島ニ配置スヘキ通信員ヲ乘船セシメ横濱ヲ出港シ、同二十二日長崎ニ入港シ、炭水ヲ補給シ、尚於青島ヨリ北方ニ延長スヘキ電線ヲ積載ス、當時我カ海軍ノ作戰ハ、著シク進捗シ、聯合艦隊ハ其ノ根據地ヲ海州邑ニ前進セントスルニ至リ、同二十八日、東鄕聯合艦隊司令長官ハ、大本營ニ向ヒテ電稟スルニ、於青島ヨリ北方ニ延長スル海底電線ハ、小乳嶽角ニ陸揚ケスルコトヲ止メ、海州邑錨地葛川角ニ陸揚ケセシメラレンコトヲ以テシ、山本海軍大臣ハ、之ヲ大浦遞信大臣ニ照會ス、是ヨリ先キ、二月二十七日伊東海軍軍令部長ハ、八口浦ニ在ル大本營附增田海軍大尉ニ電訓スルニ、三月二日八口浦ニ到著スヘキ沖繩丸ニ乘組ミ、航路指導等必要ノ補助ヲ與ヘ、梶浦遞信技師ト協議シ、八口浦、於青島及ヒ小乳嶽角間ノ海底電線ヲ敷設スヘキヲ以テシ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

同二十八日、運送船三河丸ハ、於青島電信取扱所ノ建築材料、大工、人夫九十八名、電信取扱所附水兵三名、舟夫長一名、舟夫五名、定夫二名ヲ搭載シテ入港シタルヲ以テ、増田海軍大尉ハ同島ニ於ル工事取締トシテ、巡査一名（木浦ヨリ八口浦ニ出張滞在中ノモノ）ヲ同船ニ搭乗出張セシメシカ、翌二十九日、同大尉ハ、伊東海軍軍令部長ヨリ、於青島ヨリ北方ニ延長スル海底電線ハ、聯合艦隊司令長官ノ希望ヲ容レ、小乳嶽角ニ陸揚ケスルコトヲ止メ、海州邑錨地葛川角ニ陸揚ケスルコトニ改メタルヲ以テ、此ノ旨聯合艦隊司令長官竝ニ梶浦技師ニ傳ヘ、然ルヘク取計ラフヘシ、トノ電訓ニ接ス、八口浦玉島ヨリ於青島ニ至ル線ハ、八口浦北水道縦島、横島ト其佐島間ノ水道ヲ通過スル豫定ナリシモ、此ノ水道ハ、航路ノ曲折多ク危險ナル岩礁ノ存在スルアリ、且未測ノ箇所アルヲ以テ、増田海軍大尉ハ、臺中丸艦長海軍中佐松村直臣ニ檢測ヲ依頼シ、通航シ得サルニアラサルヲ知レルモ、尚北島、横島間（艦隊附屬水雷敷設隊ノ水雷敷設面）ヲ安全ト思考シ、聯合艦隊附屬敷設隊司令海軍中佐小田喜代藏ノ意見ヲ叩キ、大本營ニ電稟シテ、其ノ許可ヲ得タルヲ以テ、電線ハ之ヲ横島三尋礁、鞍島ノ各西端ニ接近シ、北水道ニ導クコトヽシ、松村臺中丸艦長ニ依頼スルニ、三尋礁ノ指示浮標ヲ準備セラレンコトヲ以テス、

三月四日、沖繩丸入港シタルヲ以テ、増田海軍大尉ハ、同船ニ乘組ミ、梶浦技師ト諸種ノ打合セヲナシ、翌五日軍艦高砂ノ水兵二十名ノ補助ヲ得テ、外舷ヲ黑色ニ塗換ヘ、（沖繩丸ハ第一回第二回工事ノ後白色ニ塗直シアリタリ）同六日島村聯合艦隊參謀長ニ照會スルニ、玉島北端ヲ起點トシ、北水道ヲ經テ於青島ニ至ル海底電線ハ、角島ノ西方、狐島ノ東方、各約二鏈ヲ通過スルノ豫定ナルヲ以テ、玉島信號杆ト狐

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

島項トノ連結線、及ヒ玉島北端ト秀山東方ニ在ル無名島北端トノ連結線ノ東北方ニハ、艦船艇ノ錨泊ヲ禁セラレンコトヲ以テス、

同七日、沖繩丸ハ、錨地ヲ玉島北端電線陸揚點附近ニ移シ、陸揚點ト電信取扱所間ノ陸上線架設ヲ了シ、同八日午前七時玉島ノ北東端（佐世保八口浦線ノ陸揚點）ニ、線端ノ陸揚ケヲ始メ、同九時四十分之ヲ了リ、直ニ拔錨航進シテ敷設ヲ始メ、翌九日午前七時四十分於青島ヲ距ル四海里ノ處ニ達シ、電線ヲ切斷シ浮標ヲ附シ、直ニ同島巴露斯港ニ至リ電線ヲ陸揚ケシテ、午後二時之ヲ了リ、再航進シテ敷設シ、浮標ノ位置ニ達シテ電線相互ノ接續ヲ了シ、巴露斯港ニ歸泊シ、同日午後七時二十分八口浦、於青島間ノ通信ヲ開始ス、

次テ同十日午前八時、於青島、葛川角間電線ノ陸揚ケヲ始メ、同十時此ヲ了リ、拔錨シテ航進敷設ス、然ルニ翌十一日午後一時五十五分、電線ノ走出延長七十三海里四六ニ達シタルトキ、（其ノ位置小延平島ノ頂ハ北々東チヤヲウル島ノ北角ハ東西北ニ當ル）「ケーブル、タンク」内ニ於テ、電線ニ「キンク」ヲ生シタルヲ以テ、停止後退シ、其ノ走出ヲ防カントシタルニ、未タ後退ヲ始メサルニ當リ、前進ノ惰力ヲ以テ電線ヲ切斷セリ、偶風强ク波高ク、捜索ノ見込ナキヲ以テ、位置浮標ヲ投シ、前進シテ巡威島ノ東方ニ至リ、艦隊ノ假泊スルヲ認メ、午後六時三十分同所ニ投錨ス、同十二日增田海軍大尉ハ、電線陸揚地點及ヒ電信取扱所建設地選定ノ爲メ、技師ヲ伴ヒ千歲ニ便乘シ、海州邑錨地ニ至リ、又沖繩丸ハ、浮標位置ニ至リ、切斷セル電線ヲ捜索接合シ、午前十一時二十分再進航シテ敷設ヲ始メ、午後五時四十四分延平島沖合ニ達シ、敷設ヲ中止シ同所ニ投錨シ、翌十三日午前十一時五十九

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

分拔錨シテ敷設ヲ始メ、午後零時四十分葛川角ノ南方約一海里ノ處ニ到リテ投錨シ、同二時十二分線端ノ陸揚ケヲ始メ、六時三十分結了ト共ニ、葛川角、於青島間ノ通信ヲ開始シ、同十四日松村臺中丸艦長（當時海州邑錨地ニ在リテ根據地ノ經營ニ從事中）ヨリ、人夫及ヒ曳船「シヤラン」船ノ補助ヲ得テ、葛川角ヨリ鷄島西岸ニ至ル線ヲ敷設シ、葛川角ノ幕營電信局ヲ鷄島西岸陸揚地ニ移シ、同十五日、更ニ此ノ處ヨリ其ノ東岸局舍建設地ニ至ル陸上線ヲ架設シ了リタルヲ以テ、幕營電信局ヲ同所ニ移シ、事務ヲ開始ス、又海州邑ト鷄島トノ間ニ、陸上電線ヲ架設スルトキノ必要ニ應スルカ爲メ、曳船及ヒ「シヤラン」船ヲ使用シ、鷄島ト其ノ對岸砂濱トノ間ニ電線敷設ヲ了ス、

而テ葛川角、鷄島間ノ海底線ハ之ヲ引揚クルコトヽナリ、三月二十三日葛川角ヨリ鷄島ノ對岸ニ至ル陸上線ノ架設ニ著手シ、同二十五日之ヲ了ル

於青島通信所ハ、後ニ至リ其ノ必要ナキニ至リタルヲ以テ、家屋ノ外全部之ヲ長山島ニ移スコトヽナシ、四月十六日之ヲ撤去ス、

第四目　海州邑錨地白翎島長山列島鹽大澳間ノ敷設

三十七年三月七日、東鄉聯合艦隊司令長官ハ、其ノ作戰根據地ヲ海州邑ニ前進スルニ當リ、前進監視哨ヲ黃海方面ニ設クルノ必要ヲ認メタルヲ以テ、同十三日大本營ニ電稟スルニ、白翎島ニ監視用家屋ヲ至急建設シ、又沖繩丸ニ在ル海底電線ノ殘餘ヲ以テ、葛川角、白翎島間ニ海底電線ヲ敷設セシコトヲ以テシ、山本海軍大臣ハ、同二十日大浦遞信大臣ニ、之カ施設ヲ照會シ、其ノ承諾ヲ得タルヲ以テ、大本營海軍幕僚ハ、在海州邑錨地增田海軍大尉ニ電報スルニ、梶浦技

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

師ト協議シ、該海底電線ヲ敷設スヘキコトヲ以テス、

當時戰局ハ、著シク發展シ、我カ第二軍ハ、金州半島方面ニ揚陸ヲ了ヘ、陸軍ニ於テハ、海底電線ノ終端タルヘキ白翎島ヨリ、海洋島ヲ經テ對岸揚陸點ニ至ル海底電線ヲ沈設スルノ必要ヲ感シタルモ、現ニ遞信省所屬ノ電線ノミニテハ、到底其ノ需要ヲ充タスニ足ラス、曩ニ英國ニ注文セル新線モ、亦未タ到著セサルヲ以テ、海軍當局者及ヒ遞信省當局者ハ、苦心ノ末、或ハ沖繩丸ヲ以テ、旅順、芝罘間ノ敵海底線ヲ引揚ケ之ヲ補ハントシ、或ハ琉球方面ニ於テ、德ノ島若クハ八重山線ヲ引揚クルノ計畫ヲナセシモ、前者ノ如キハ、戰機未タ之ヲ許サス、終ニ陸海軍遞信各當局者協議ノ結果、三月二十日寺内陸軍大臣ヨリ山本海軍大臣ニ照會シ、横須賀ニ於テ水雷用ト シテ現存スル七心電纜七十海里ヲ、海軍ヨリ陸軍ニ貸與シ、且揚武ニテ横須賀ヨリ葛川角迄輸送シ、沖繩丸ニ移スコトヽナリ、（四月一日山本海軍大臣ハ東郷聯合艦隊司令長官ニ電訓スルニ右ニ對シ相當ノ便宜ヲ與ヘ其ノ敷設ノ時機等ニ關シテハ經伺ノ上同船乘組ノ當該官吏ニ指示スヘキヲ以テス）長崎、横濱現在ノ遞信省所屬四心電纜以下九十七海里、沖繩丸現在及ヒ葛川角、鷄島間引揚ケノ分共五十六海里、竝ニ海軍用七心電線七十海里、合計二百二十三海里ヲ以テ、葛川角ヨリ白翎島、海洋島ヲ經テ第二軍揚陸點マテ、之カ敷設ヲ實施スルコトニ決定ス、（四月十一日寺内陸軍大臣ヨリ更ニ山本海軍大臣ニ照會ノ結果條備トシテ尚七心電纜二萬米突ヲ海軍ヨリ陸軍ニ貸與シ運送船喜佐方丸ヲ以テ之ヲ横須賀ヨリ佐世保軍港マテ運搬シ次テ伊吹丸ヲ以テ沖繩丸所在地ニ運搬スルコトヽナリタリ）

揚武ハ、三月二十二日横須賀ニ於テ、海軍用電纜及ヒ遞信省所屬ノ電纜積込ニ著手シ、同二十五日之ヲ了リ、（電纜搭載ノ事業報告ハ第十二部中電信紀要ニ在リ）同二十八日同港ヲ拔錨シ同三十一日佐世保ニ著シ、四月十日ヨリ十四日ニ至ル間ニ於テ、電纜ノ一部ヲ沖繩丸ニ移シ、翌十五日出港シ、同十九日海州邑錨地

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ著シ、同二十三日ヨリ同二十六日迄ニ於テ、殘餘ノ電纜ヲ沖繩丸ニ移シ了ル、又喜佐方丸ハ、横須賀ニ於テ電纜ヲ搭載シ、四月十三日同港ヲ拔錨シ、同十七日佐世保ニ著シ、同二十一日及ヒ二十二日ノ兩日ヲ以テ、電纜ヲ伊吹丸ニ移シ、伊吹丸ハ、同日午後四時海州邑錨地ニ向ヒ佐世保ヲ出港シ、同二十七日同地ニ著シ、直ニ電纜ヲ沖繩丸ニ移ス、

是ヨリ先キ、沖繩丸ハ、三月二十五日海州邑錨地ヲ拔錨シテ白翎島ニ向ヒ、同島南東端四二六呎山麓（同山頂ニ無線電信所工事中ナリ）ノ砂濱ニ於テ、陸揚地ヲ選定シ、翌二十六日午前五時陸揚ケニ著手シ、同十一時ヨリ進航シテ敷設シ、同二十七日午前九時葛川角ヲ距ル約一海里半ノ處ニ於テ、電線ヲ繰出シ了リタルヲ以テ、臺中丸ヨリ曳船及ヒ「ライター」ヲ借リ、之ヲ使用シテ葛川角、鷄島間電線ノ一部ヲ引揚ケ、其ノ不足ヲ補ヒ接續陸揚ケヲ了シ、午後八時ヲ以テ鷄島、白翎島間ノ通信ヲ開始スルニ至リシモ、白翎島在勤ノ通信員未タ到著セサルヲ以テ、鷄島ヨリ技手一名ヲ派遣ス、

沖繩丸ハ、翌二十八日午後二時海州邑錨地ヲ出港シ、同三十日長崎ニ著シ、電線搭載ニ著手セシニ、同三十一日揚武ハ電線ヲ搭載シテ佐世保ニ入港シタルヲ以テ、四月四日長崎ニ於ル電線搭載ヲ中止シ佐世保ニ回航セシニ、佐世保、八口浦線ニ於テ、八口浦附近ニ故障ヲ生セシ點アリシヲ以テ、之ヲ修理シタル後、同十日佐世保ニ入港シ、揚武ヨリ電線ノ一部ヲ移載シ、同十四日之ヲ了リ、長崎ニ歸リ再電纜ヲ搭載シ、同十六日之ヲ了ル、（翌十七日出港シ同十九日海州邑ニ著ス）同日伊東海軍軍令部長ハ、東郷聯合艦隊司令長官ニ左ノ如ク電訓ス、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

沖繩丸ハ十七日長崎ヲ發シ其ノ地（海州邑錨地）ヘ回航ノ筈ニ付到著ノ上ハ成ルヘク速ニ白翎島ヨリ先キノ延長工事ニ著手セシメ其ノ端ハ海洋島附近海面便宜ノ位置ニ止メ置クヘシ右工事了レハ速ニ揚武ニ在ル海底電線ヲ沖繩丸ニ積移ス必要アルニ付適宜援助ヲ與ヘ積移ヲ了セシムヘシ

増田大尉ニハ貴官ノ指揮ヲ受ケ海底電線延長工事ヲ監督スヘキ旨訓令セリ

次テ同二十日、東鄉聯合艦隊司令長官ハ、第一艦隊司令官海軍少將出羽重遠ニ令スルニ、第三戰隊（高砂ヲ缺キ淺間ヲ加フ）及ヒ第十四艇隊（真鶴、鵲ヲ缺キ燕ヲ加フ）ヲ率ヰ、間接ニ沖繩丸ヲ掩護シ海洋島ニ至ルヘキヲ以テシ、沖繩丸ハ、右間接掩護ノ下ニ、同日午前五時海州邑錨地ヲ出港シ、午後七時白翎島ニ著シ、同二十一日午前六時電纜ノ陸揚ケニ著手シ、同十時之ヲ了リ、直ニ海洋島ニ向ヒ航進敷設シタルニ、同二十二日早朝、約七十五海里ノ處ニ於テ、電線ニ「キンク」ヲ生シ爲メニ切斷シタルヲ以テ、之ヲ揚收接續シタル後、進航ヲ續ケ、午後六時白翎島ヨリ約百海里海洋島附近ニ至リ、線端ヲ密封シテ海中ニ投シ、同二十三日午後一時海州邑ニ到著シ、揚武ヨリ電纜ノ殘部ヲ移積シ、同二十七日伊吹丸ヨリ電纜ヲ移載シ、海洋島ヨリ長山島、鹽大澳間電線敷設ノ時機ヲ待チシニ、五月初旬、聯合艦隊ハ、第二軍ヲ鹽大澳ニ上陸セシムルト共ニ、陸海協同ノ作戰ヲ開始シ、更ニ作戰根據地ヲ海州邑ヨリ裏長山列島ニ前進セシメントスルニ至リ、五月二日正午沖繩丸ハ護衛艦大島ト共ニ、海州邑錨地ヲ出發シ、同三日拂曉、曩ニ密封投入セル海洋島附近線端所在地ニ至リタルモ、風波强キヲ以テ、大島ト共ニ海洋島北方錨地ニ假泊シ、正午ノ頃天候稍平穩トナリシヲ以

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

テ、線端ノ位置ニ至リ、之ヲ揚收シテ接續シ、午後六時ヨリ進航シテ敷設ス、時ニ海面暗黑ニシテ航行頗ル難キモノアルヲ以テ、午後九時投錨シテ月明ヲ待チシモ終ニ霽レス、翌四日午前五時進航ヲ始メシモ、濃霧襲來シテ咫尺ヲ辨セサルヲ以テ、已ムヲ得ス投錨シ、同十時再進航シテ敷設ス、時ニ五月一日以來ノ艦隊宛電報堆積スルニ至リシヲ以テ、大島ニ託シテ之ヲ艦隊ニ送致シ、午後零時三十分大長山島ノ北東ニ於テ驅逐艦朧ニ會シ、上陸延期ニ付沖繩丸ハ其ノ附近ニ於テ五日朝迄止レ、トノ東鄕聯合艦隊司令長官ノ命令ヲ受ク

是ニ於テ增田海軍大尉ハ、東鄕聯合艦隊司令長官ハ沖繩丸ノ既ニ大長山島西端ナル豫定陸揚地附近ニアルモノトシテ、右命令ヲ發シタルモノナラント考察シ、梶浦技師ト協議シ、直ニ同處ニ到ルニ決シ、午後七時頃同島北西岬ニ至リテ投錨シ、（此ノ時大島歸來ス）徹夜警戒シ、翌五日午前五時電線ノ陸揚ケヲ始メ、（時ニ鹽大澳ニ於テハ第二軍ノ上陸開始セラレタルモノ、如ク運送船續々集合シ貔子窩方面赤城ノ陸上ヲ砲擊スルヲ見ル）急潮高波ノ難ヲ凌キ、辛ウシテ同十一日白翎島線及ヒ鹽大澳線ノ陸揚ケヲ了リ、同處ニ海軍假通信所ヲ設ケタル後、直ニ進航シテ敷設シ、午後七時鹽大澳附近ナル黑島ノ西側ニ至リ、船內ニ於テ電報取扱ヲ開始ス、

當時該方面ハ荒天多ク、爲メニ同六日朝陸軍ヨリ電線陸揚ケノ爲メ來ルヘキ團平船來ラス、翌七日夜ニ至リ團平船及ヒ汽艇來リシモ、小形ニシテ用ニ堪ヘス、同九日風波稍收リ、大團平船來リタルヲ以テ、漲潮ヲ待チテ陸揚ケニ著手セシニ、風波再起リ、且水淺クシテ約二海里ヲ進航セシトキ汽艇坐洲セシヲ以テ、更ニ滿潮ヲ待チテ進航ヲ續ケ、午後六時陸揚ケヲ了ル、而テ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

鹽大澳野戰電信所ニ至ル間ハ、一時陸軍用被覆線ヲ用ヒ、(後チ之ヲ撤シ陸線ヲ架設ス)通信機ヲ裝シテ通信ヲ開始ス、

同十日、沖繩丸ハ、陸線材料等ヲ陸軍ニ引渡シ、翌十一日裏長山列島ニ至リ、艦隊ノ希望ニ依リ、曩ニ假設セル同島北西岬ノ假通信所ヲ島ノ中央ニ移シ、其ノ電線ヲ聯絡シ、同十三日之ヲ了ル、

是ニ於テ海州邑錨地、白翎島、長山島、鹽大澳間ノ海底電線連絡完成シ、内地ト出征艦隊及ヒ野戰軍トノ間ニ、確實ナル通信ヲ爲シ得ルニ至ル、

第五目　浦鹽線ノ志自岐灣及ヒ竹邊灣陸揚ケ竝ニ竹邊灣鬱陵島間ノ敷設

三十七年六月中旬、大浦遞信大臣ハ、山本海軍大臣ノ照會ニ應シ、長崎及ヒ浦鹽間ニ敷設シアル大北電信會社所屬海底電線ヲ、平戸島方面ニ於テ切斷シ、之ヲ志自岐埼附近ニ陸揚ケシテ、同處ヨリ望樓線ニ依リ平戸ニ至ラシメ、又國用線ニ依リ佐世保郵便局ニ接續セシメントシ、同十五日梶浦技師ヲシテ、沖繩丸ニ依リ電線ノ切斷竝ニ陸揚ケヲ行ハシメ、長崎郵便局ヲシテ陸上線ノ接續ヲ爲サシム、

依テ梶浦技師ハ、沖繩丸ニ乘シ、同二十四日長崎ヨリ佐世保ニ回航シ、該工事ニ要スル海軍用電纜ヲ搭載シ、同二十九日志自岐ニ著シ、野子ノ海岸ヲ陸揚地點ニ選定シタル後、浦鹽線ノ捜索ニ著手シ、先ツ普通海圖上ニ記セル位置ニ基キ、上海獺、下海獺ノ附近ニ於テ、數回捜索ヲ試ミタルモ、右兩島附近ハ、海底岩石多ク發見困難ナルヲ以テ、更ニ南方大立島、江ノ島附近ヲ捜索

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シ、護謨心線ノ中間線ヲ得、續イテ他ノ一線ヲ引揚ケ、（第十二部中電信紀要參照）各之ニ新線ヲ接續シテ、野子ニ陸揚ケシ、七月九日、佐世保郵便局ヨリ同地ニ至ル陸線ニ接續ス、此ノ陸線ニ介在スル平戸海峽ノ海底電線ハ、同海峽ノ潮流急激ニシテ海底不良ノ處アルヲ以テ、海軍用電纜ヲ使用シ、尚故障ヲ生シタル場合ニ際シ、敷設船ノ來航ヲ待タス、更ニ一線ヲ敷設シ得ンカ爲メ、豫備線トシテ、陸揚地ノ砂中ニ、海軍用電纜一條ヲ埋藏ス、

是ヨリ先キ、六月十八日、山本海軍大臣ハ、大浦遞信大臣ニ照會スルニ、浦鹽線ヲ韓國江原道竹邊ノ方面ニ於テ切斷シ、其ノ一端ヲ竹邊ニ陸揚ケシテ、同處ニ在ル我カ假設望樓内ニ、適當ノ設備ヲ施サンコトヲ以テシ、同二十一日竹邊灣ニ望樓ノ假設ヲ令セシカ、同二十九日大浦遞信大臣ハ、以上ノ照會ニ應シ、梶浦技師ヲシテ沖繩丸ヲ以テ之ヲ施行セシム、依テ七月一日山本海軍大臣ハ、第二艦隊司令長官海軍中將上村彦之丞ニ左ノ訓令ヲ與フ、

長崎ヨリ浦鹽ニ通スル海底電線ヲ竹邊灣方面ニ於テ切斷シ其ノ端ヲ竹邊ニ陸揚ケシ同所ニ建設スル假設望樓内ニ引込ミ相當ノ設備施行方ヲ遞信大臣ニ照會シ置キタルニ沖繩丸ヲ以テ施行スヘキ樣同船乘組遞信技師梶浦重藏ヘ訓令シタル旨回答ニ接シタリ又該線ノ内地線ハ既ニ平戸島方面ニ於テ切斷シ志自岐埼附近ニ陸揚ケシテ我カ陸上線ト接續ノ工事中ナリ沖繩丸ハ竹邊ニ回航スルノ準備整フタルトキハ先ツ竹敷ニ至リ貴官ノ指示ヲ承ケ進退スルコトニ遞信大臣ヘ協議濟ナリ

次テ同八日、山本海軍大臣ハ、伊東海軍軍令部長ノ商議ニ基キ、大浦遞信大臣ニ照會スルニ、竹邊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

灣、鬱陵島間ニ海底電線ヲ敷設センコトヲ以テシ、九月八日上村第二艦隊司令長官ハ、尾崎ニ於テ、瓜生第二艦隊司令官ニ左ノ訓令ヲ與フ、

一、旅順方面ニ於ル彼我ノ情況ハ依然タリ

浦鹽ノ敵ニ關シテハ何等ノ情報ヲ聞カス

二、沖繩丸ハ竹邊灣及ヒ松島ニ電線連絡ヲ設ケンカ爲メ左ノ豫定日割ニ依リ作業セントス

同船ハ諸準備ノ爲メ本日午後竹敷ニ入港ノ豫定

(一)竹邊灣附近ニテ浦鹽線捜索(豫定日數三日間)

(二)竹邊灣ニテ同線陸揚ケ(同二日間)

(三)松島竹邊灣線敷設及ヒ松島ニテ陸揚ケ(同三四日間)

三、貴官ハ麾下ノ軍艦二隻ヲ出シ交代期ヲ定メ左ノ任務ニ服セシムヘシ

(一)沖繩丸直接掩護

(二)前進艦ト尾崎ニ在ル本隊トノ通信連絡

但竹邊灣ヨリ本隊ト直接通信連絡ヲ得ハ通信中繼艦ヲ廢ス

四、竹邊灣ト本隊トノ直接通信連絡ヲ得ル迄ハ沖ノ島附近ニ哨艦ヲ出スニ及ハス

(乙隊機密第五九四號)

依テ翌九日、瓜生第二艦隊司令官ハ、麾下ニ左ノ命令ヲ發ス、

一、沖繩丸ハ竹邊灣及ヒ松島ニ電信連絡ヲ設ケンカ爲メ左ノ豫定日數ニ依リ作業セントス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

同船ハ今日竹敷ニ入リ明日尾崎ニ回航シ同日午後二時作業開始ノ爲メ出港ス其ノ速力ハ約十節半トス

（イ）竹邊灣附近ニテ浦鹽線捜索（豫定日數三日間）

（ロ）竹邊灣ニテ同線陸揚ケ（同二日間）

（ハ）竹邊灣以南ノ修理（同不詳蓋二三日以内ナラン）

（ニ）松島、竹邊灣敷設及ヒ松島ニテ陸揚ケ及ヒ陸線建設（同三四日間）

二、第四戰隊（千歳復歸次第之ヲ加フ）ハ左ノ要領ニ依リ交互二艦宛沖繩丸作業中ノ掩護ニ任ス而テ此ノ任務中沖ノ島方面ノ哨艦ハ特記セル場合ノ外中止ス

（イ）一艦ハ沖繩丸ノ直接掩護

（ロ）他ノ一艦ハ直接掩護艦ト尾崎ニ在ル先任旗艦トノ通信中繼

但竹邊灣ヨリ尾崎ニ直通ノ連絡出來上リ次第此ノ中繼艦ヲ廢スルト同時ニ沖ノ島哨艦任務ヲ復興ス

三、中繼艦ノ位置

三九〇地點附近

四、掩護艦及ヒ沖繩丸ノ行動ヲ概定スル左ノ如シ

（一）直接掩護艦ハ日沒迄適宜警戒掩護ヲナシ日沒後ハ適宜南下シ天明後掩護位置ニ復スルモノトス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(二)沖繩丸ハ夜間其ノ他陸上事業繼續中ハ適宜ノ位置ニ假泊スル等臨機直接掩護艦ノ命ニ依リ行動スヘシ

(三)中繼艦ハ日沒後ヨリ適宜南下シ翌天明其ノ定位置ニ復スルカ如クシ晝間無線電信有效距離以外ニ在ルトキハ適宜北進又ハ南進シテ連絡ヲ遂行スルヲ要ス

五、沖ノ島哨艦ノ現任務ヨリ此ノ任務ニ移ルノ動作

現哨艦ノ次ナル二艦(對馬浪速)ハ沖繩丸掩護艦トナリ出港シ艦質上速力遲キモノハ中繼艦トナリ速キモノハ直接掩護艦トナリ順次其ノ位置ニ就キ前記ノ行動ヲ取ルヘシ

沖ノ島現哨艦タル高千穗ハ十一日天明哨所ヲ發シ根據地ニ歸來セシム(卽チ對馬ハ直接掩護艦トナリ沖繩丸ヲ率ヰテ十日午後二時尾崎ヲ出港シ浪速ハ中繼艦トナリ同日午後七時出港シ翌天明二九〇地點ニ至ル)

六、掩護艦ノ交代

此ノ勤務ニ對スル次順ニ當レル二艦ハ此ノ任務ニ對スル第一順出發後第三日目(十日ニ第一順出發セルトキハ第二順ハ十三日)午後各自適宜根據地ヲ發シ第四日目早朝各指定位置ニ達スル如クスヘシ但掉尾埼沖ヨリ可成三九〇地點ニ向ヒ夫ヨリ北上スルノ航路ヲ取ランコトヲ要ス勤務結了歸來スヘキ艦ハ日沒其ノ位置ヲ離レ南下歸途ニ就キ翌日尾崎ニ入ルモノトス

歸航艦ハ新來掩護艦ノ航路ヲ避クルノ航路ヲ採リ其ノ夜ノ沖繩丸ノ所在ヲ直接掩護艦ニ通信ス

浪速中途ニシテ入渠ノ爲メ中繼艦ノ位置ヲ去ル場合ニ在リテハ新高ハ之ニ代リ後チ直接

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

掩護艦タル千歳ノ中繼艦トナリ同艦ト同時期ニ歸港スヘシ

七、竹邊灣ト尾崎トノ連絡直通シ中繼艦ヲ廢シ沖ノ島哨艦ヲ復興セル場合ニ在リテハ浪速高千穗ハ交代シテ規定通リ沖ノ島哨艦任務ニ服シ他ノ三艦ヲ以テ交互沖繩丸ノ直接掩護ニ任セシム但場合ニ依リ其ノ一艦ヲ臨機沖ノ島哨艦ニ就カシムルコトアルヘシ

八、報告

沖繩丸掩護艦ハ哨艦同樣毎八點鐘ニ異狀ノ有無ヲ報シ尙直接掩護艦ハ沖繩丸事業進歩ノ程度及ヒ其ノ夜居ルヘキ沖繩丸ノ位置ヲ日々極簡單ニ報告シ又常ニ連絡ヲ取リ居ルヘシ但無線電信ハ極テ必要ナル事項以外ニ使用セサルコトニ注意スヘシ

九、對敵動作

敵ヲ發見セハ直接掩護艦ハ警急ヲナスト同時ニ沖繩丸ヲシテ避敵セシメ自己モ中繼艦ニ合スル如ク行動スヘシト雖モ多クノ場合此ノ方面ニ於ル遭敵ハ優勢ナルヘク賴ムヘキハ速力ノ彼ニ勝レルアルノミ依テ危險ト思料セハ一切他ヲ顧慮スルコトナク安全ヲ保チ得ル自由ノ行動ヲ取ル等艦長ノ獨斷ニ委ス中繼艦ニシテ速力敵ニ劣ル者ニ在リテハ敵ノ勢力ニ應シ擅ニ北進セス臨機行動シテ主隊ノ來會ヲ待ツ等是亦艦長ノ獨斷ニ委ス沖繩丸ハ常ニ掩護艦ノ警急ニ注意シ對敵ニ際シテハ掩護艦ノ命令ナキ限リ其ノ場合ニ應シ獨斷行動シテ避敵ニ一切ノ手段ヲ盡スヲ要ス

十、此ノ任務結了次第沖ノ島哨艦任務ヲ四戰機密第二二五號命令（編者曰ク第一部第四篇參照）ノ如ク實行ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

浪速ヲ哨艦任務ヨリ削除ス

十一、沖繩丸今回ノ作業中對馬ハ信號部員一名ニ發光信號燈一組手旗等ヲ携帶シ十日以後沖繩丸ニ乘組マシムヘシ

（注意）安平丸ハ蔚山望樓ヘノ用務ヲ以テ來十一日未明尾崎發蔚山ニ至リ直ニ歸港ノ豫定ナリ

千歳ハ明十日若クハ十一日尾崎歸港ノ豫定

（四戰機密第二二六號）

然ルニ、東鄕聯合艦隊司令長官ハ、作戰ノ都合上、千歳ヲシテ裏長山列島ニ回航セシメ、浪速ハ入渠ノ爲メ、十二日中繼艦任務地ヲ發シ佐世保ニ向ハシメ、其ノ不在中、千早ヲ第四戰隊ニ加ヘタルヲ以テ、瓜生第二艦隊司令官ハ、前記命令中、千歳ニ關スル總テノ事項ヲ削除シ、沖繩丸ノ掩護及ヒ中繼任務順序ヲ左ノ如ク定ム、

艦名＼月日	九月十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日
對馬	發	掩	掩	PM掩發	歸	休	發	掩	掩	掩發	歸	休	發	掩	掩	掩發
浪速	發	中	PM中發													
新高			PM發	中	掩	掩	掩發	歸	休	發	掩	掩	掩發	歸	休	發
千早				PM發	PM中	中	PM中發	歸	休	發	中	中	中發	歸	休	發
高千穗							發	中	中	中發	歸	休	發	中	中	中發

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

以下此ノ順ヲ繰返ス

掩護艦ハ速力約十二節ニテ午前十一時頃根據地ヲ發シ翌日午前五時頃掩護地點ニ達ス

中繼艦ハ速力約十里ニテ午後七時頃根據地ヲ發シ翌日午前五時頃三九〇地點ニ達ス

斯テ沖繩丸ハ、同十日竹敷ヲ出港シ、第四戰隊掩護ノ下ニ、浦鹽線ノ竹邊灣陸揚ケ及ヒ竹邊灣、鬱陵島間海底電線敷設工事ニ著手シ、同十一、十二ノ兩日間、竹邊ヲ距ル東方約十海里附近ニ於テ、浦鹽線ヲ捜索シタルモ、之ヲ捜リ獲サルヲ以テ、海圖ヲ按スルニ、ルッドネル岬附近ハ水深稍淺ク、且浦鹽線二線相接近シ居ルカ如クナルヲ以テ、此ノ方面ヲ捜索シ、同十三日同岬沿岸ヲ距ル約十二海里ノ處ニ於テ、遂ニ第一線ヲ獲タリ、依テ翌十四日竹邊ヨリ新線ヲ敷設シ、志自岐方面ノ線端ト接續ヲ了リ、同十五日松島線ノ陸揚工事ニ移ル、而テ竹邊望樓ノ無線電信ハ、架空線ニ對シ通信ヲ妨害スルノ虞アルヲ以テ、陸揚地ヨリ望樓マテハ海軍電纜ヲ埋設シ、以テ通信ヲ連絡セリ、

同十六日午前七時、沖繩丸ハ、新高掩護ノ下ニ松島（鬱陵島）ニ向ヒ、敷設シテ航進ス、然ルニ竹邊灣、松島間ノ水深ハ、海圖ニ明ナラサルモ、松島ニ近ツクニ從ヒ漸次其ノ深サヲ增シ、千尋以上ノ箇所尠カラサルカ如キヲ以テ、張力ニ注意シ徐々進航セシニ、正午頃ヨリ風波漸ク荒ク、船體ノ動搖ニ隨ヒ、電線ニ張力ヲ及スコト甚シク、動モスレハ切斷スルノ虞アリ、午後九時三十分、松島ノ南西海岸ヲ距ル數百間、水深百十尋ノ地點ニ達シ、電纜ニ浮標ヲ附シテ投下シ、同處ニ假泊セントセシモ、風波益〻荒キヲ以テ、已ムヲ得ス竹敷ニ歸港ス、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

同十七日、瓜生第二艦隊司令官ハ、千早、浪速、高千穗ヲ沖ノ島方面ノ哨艦勤務ニ服セシメ、對馬、新高ヲシテ、依然沖繩丸ノ直接掩護ニ服セシムルコトヽシ、同二十二日、沖繩丸及ヒ新高ハ、相前後シテ竹敷ヲ出港シ、鬱陵島ニ向ヒシモ、途上風波漸ク荒ク、到底作業ノ見込ナキヲ以テ、正子避泊ノ爲メ竹邊灣ニ向ヒ、翌二十三日午前七時三十分同灣ニ入港ス、時ニ風波猶收ラス、此ノ方面ノ作業ニモ從事スル能ハス、午後十時、風波稍和キタルヲ以テ出港シテ鬱陵島ニ向ヒ、同二十四日午前五時三十分同島ニ著シ、新高ハ同島附近ニ在リテ監視ニ任シ、沖繩丸ハ、曩ニ投入シ置キタル電線ノ附近ヲ測量シタル後、松島東望樓ノ南西方ニ於テ、其ノ一端ヲ陸揚ケシ了リ、之ト竹邊灣線トノ海上接續作業ニ從事シ、將ニ之ヲ了ラントスルノ際、午後五時十分、上村第二艦隊司令長官ヨリ、浦鹽斯德艦隊修理濟ノ報アリ沖繩丸工事落成至急ヲ要ス、進行ノ模樣如何、トノ電報アリ、續イテ同長官ヨリ、浦鹽斯德艦隊二十一日夜出港ノ報アリ、沖繩丸工事中止シ尾崎ニ歸レ、トノ電命ニ接シタルヲ以テ、新高艦長ハ之ニ對シ、應急接合一時間ニテ終ル見込ナル故、結了後、速力十二海里ニテ海岸ニ沿ヒ南下ス、ト返電シ、沖繩丸ハ接合ヲ急キ、同八時三十分之ヲ了リ、新高ハ沖繩丸ノ陸上派遣員ヲ收容シ、同船ヲ率ヰ竹敷ニ歸航ス、

松島陸上ニハ、天幕ヲ張リテ通信機械ヲ假設シ、通信員二名ヲ殘留セシメ、竹邊、松島間ノ通信ヲ開始ス、

其ノ後、浦鹽艦隊ハ、依然港內ニ蟄伏シテ、出動セサルモノヽ如キヲ以テ、同二十八日、上村第二艦隊司令長官ハ、新高ヲ松島及ヒ竹邊灣ニ派シ、陸上電信工事ヲ竣成セシム、依テ同艦ハ、遞信

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

技師等十二名ヲ乘セ、同日午前十時竹敷ヲ出港シ、翌二十九日松島ニ著シ、同三十日竹邊灣ニ至リ、各陸上電信工事ヲ終了シ、十月一日竹敷ニ歸港ス、

第六目　對馬沖ノ島角島見島間ノ敷設

明治三十七年六月十五日及ヒ七月一日、浦鹽艦隊ノ朝鮮海峽ニ南下セルニ際シ、沖ノ島望樓ニ於テハ、兩回共早ク之ヲ發見シタルモ、電信ノ設備ナキカ爲メ、之ヲ急報スル能ハス、作戰上遺憾ヲカラサルヲ以テ、七月四日上村第二艦隊司令長官ハ、大本營ニ電稟スルニ、一日モ早ク沖ノ島、對馬間ニ海底電線ヲ敷設セラレンコトヲ以テス、然ルニ大本營ニ於テハ、夙ニ朝鮮海峽方面通信連絡ノ缺陷ヲ認メシモ、電線不足ノ爲メ之ヲ施設スルニ至ラサリシカ、海外注文ノ電線ハ、日ナラスシテ到著スヘキヲ以テ、同五日伊東海軍軍令部長ハ、山本海軍大臣ト商議シ、竹敷、沖ノ島、角島間、竹敷、鴻島、松眞間、（第九目參照）竹邊、鬱陵島間（第五目參照）ニ海底電線ヲ敷設シ、沖ノ島望樓ニ電信事務ヲ開始スルコトニ決シ、同八日同大臣ハ、大浦遞信大臣ニ之カ敷設ノ委託ヲ爲セシニ、同十一日遞信大臣ハ梶浦技師ニ命スルニ、新線到著ノ上沖繩丸ヲ以テ之カ工事ニ從事スヘキヲ以テス、

而テ英國ニ注文セル海底電線一千海里ノ內、五百海里ハ英船「エプソン」號ニテ七月中旬到著シ、殘餘ノ五百海里ハ英船「マショナ」號ニテ八月初旬到著シタルヲ以テ、沖繩丸ハ八月二日長崎ニ於テ、先ツ「エプソン」號ニ搭載セル深海線ノ移載ニ著手シ、同五日之ヲ了リ、同七日竹敷ニ著シ、翌八日鷄知灣ニ回航シテ、沖ノ島線ノ陸揚地ヲ勝見浦ニ選定ス、而テ同日ヨリ九日ニ至ル二日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

間ハ、風波荒クシテ陸揚工事ヲ行フ能ハス　同十日同工事ヲ了リ、沖ノ島ニ向ヒ進航シテ敷設セシカ、同日旅順艦隊脱出シ、黄海ニ於テ我カ艦隊トノ戰鬪アリ、朝鮮海峽制扼ノ任ニ在ル第二艦隊ハ、極力同海峽ノ監視警戒ニ從事シ、同十一日午前九時四十分、軍艦對馬ハ哨戒任務中、上村第二艦隊司令長官ヨリ、本日沖繩丸沖ノ島ニ電線ヲ陸揚ケス、其ノ艦ハ之ヲ監視シ且之ヲ掩護スヘシ、トノ無線電信命令ニ接シ、次テ同十一時四十五分、瓜生第二艦隊司令官ヨリ、沖繩丸ノ敷設事業ハ、此ノ際沖ノ島附近ニテ中止セシム、工事ハ大至急ヲ要ス、トノ無線電信ヲ受領シ、午後零時十五分沖ノ島南東ニ於テ沖繩丸ニ會シ、右命令ヲ傳ヘ、且之ヲ掩護セリ、已ニシテ沖繩丸ハ沖ノ島南岸ニ達シ、電線ヲ陸揚ケシテ、海岸ニ天幕ヲ張リ通信員二名ヲ殘シ、對馬ニ掩護セラレテ嚴原ニ歸港ス、然ルニ暫時ニシテ沖ノ島線全ク不通トナリタルヲ以テ、直ニ之ヲ修理セントセシモ、戰況上之ヲ見合シ、同十三日我カ艦隊沖ノ島附近ニ在ルニ乘シ、午前十一時同島ニ至リ電線ノ故障ヲ修理シ、午後八時之ヲ了リ、竹敷、沖ノ島間通信ヲ開始ス、

同十五日、（蔚山沖海戰ノ翌日）沖繩丸ハ沖ノ島ニ至リ、陸上線ノ設營其ノ他陸揚工事ニ著手シ、同十六日之ヲ了リタルヲ以テ、翌日ヨリ沖ノ島、角島間ニ電線ヲ敷設セントセシモ、天候不良ニシテ風波荒ク、兩所共陸揚ケ困難ナルヲ以テ、油谷灣ニ避泊シ風波ノ收ルヲ俟チ、同二十一日角島、見島間ノ敷設ニ著手ス

是ヨリ先キ、軍艦千早ハ、上村第二艦隊司令長官ノ命ニ依リ、同十五日竹敷ヲ出港シ、沖繩丸ノ掩護ニ從事セシカ、作戰ノ都合ニ依リ、同二十一日竹敷ニ歸航シ、日本丸之ニ代ル、而テ沖繩丸

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ、同日角島、見島間ノ敷設ヲ了シ、同二十三日通信ヲ開始シ、同二十六日角島、沖ノ島間ノ敷設ヲ爲セシモ、風波荒クシテ陸揚工事ヲ爲ス能ハス、已ムヲ得ス海底線ヲ切斷シ、浮標ヲ附シテ海中ニ投シ、嚴原及ヒ竹敷ニ避泊シテ天候ノ回復ヲ待チシモ、風波容易ニ收ラサルヲ以テ、比較的工事ノ容易ナル浦鹽線志自岐端ノ修理ヲ行ヒタル後、九月七日沖ノ島ノ陸揚工事ヲ行ヒ、茲ニ竹敷、沖ノ島、角島、見島間ノ通信連絡完成ス、

第七目　大連灣白翎島蔚島間ノ敷設八口浦線ノ蔚島陸揚ヶ蔚島仁川間ノ敷設及ヒ葛川角白翎島長山島鹽大澳間ノ引揚ヶ

明治三十七年九月下旬、山本海軍大臣ハ、寺内陸軍大臣ト協議ノ上、十月四日大浦遞信大臣ニ左ノ照會ヲ爲ス、

海州邑錨地鷄島電信取扱所ハ海軍ニ於ル作戰上最早存置ノ必要ナキニ至リタルノミナラス同所ハ越冬ニモ困難ナル趣ニ付陸軍省所管白翎島鹽大澳間水底線敷設換ノ工事ニ伴ヒ左ノ通リ工事改施方貴省ヘ委託致度別紙要領書相添此段及照會候也

（別紙）

水底線敷設改施要領

一、白翎島及ヒ蔚島間ニ一線ヲ敷設シ白翎島、葛川角間竝ニ鷄島對岸ヨリ鷄島間ノ水底線ヲ引揚クルコト

二、八口浦葛川角間ニ於ル現在敷設線ヲ蔚島附近ニ於テ切斷シ之ヲ同島ニ陸揚ケシテ殘

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

餘ノ水底線ヲ引揚クルコト

三、蔚島仁川間ニ新線ヲ敷設シ八口浦竝ニ白翎島ト連絡セシムルコト

以上ノ場合ニ於テ蔚島局ヲ中繼局トス

大浦遞信大臣ハ、同五日、右照會ニ應シ、梶浦技師ニ命スルニ、沖繩丸ヲ以テ之カ工事ヲ施行スヘキコトヲ以テス、依テ同十一日、山本海軍大臣ハ、東鄕聯合艦隊司令長官ニ左ノ如ク電訓ス、

遞信省ニテハ陸軍省ノ委託ニ係ル靑泥窪白翎島間海底電線ノ敷設換及ヒ從來ノ分引揚ケノ爲メ沖繩丸ヲシテ今十一日午後三時長崎ヲ出發シ先ツ靑泥窪ニ回航セシムルニ付軍事行動ニ差支ナキ限リハ適宜同船ノ進退ヲ指示シ且靑泥窪半島南岸陸揚點附近ニ於ル海面ノ掃海竝ニ水路ノ嚮導等必要ナル便宜ヲ與フル樣取計ラフヘシ同船ニハ軍令部ヨリ海軍少佐增田高賴ヲ派遣シアリ

沖繩丸ハ、同十九日大連灣ニ著シ、直ニ掃海及ヒ陸線連絡等ニ關シ、陸海軍官憲ト協議ヲ遂ケ翌二十日西臺山前ヲ陸揚地ニ選定シ、其ノ附近海面ノ掃海了ルヲ俟チ、同二十四日同地ニ回航シ、同二十五日電線ヲ陸揚ケシテ、同二十六日航進敷設ニ著手シ、（灣外迄ハ掃海船新發田丸ノ嚮導ニ從フ）同二十八日、大連、白翎島間ノ連絡工事ヲ完結シ、續イテ白翎島、蔚島間ノ敷設ニ著手ス、而テ白翎島端ノ陸揚線ハ、同島長山島線ノ一端ヲ轉用スルコトヽシ、同日白翎島ヲ距ル約七海里ノ處ニ於テ之ヲ捕捉シ、同島ニ向ヒテ引揚クルコト三海里半ニシテ之ヲ切斷シ、新線ト接續シ、蔚島ニ向ヒ進航シテ敷設シ、同二十九日午後三時、同島ヲ距ル約四海里ノ處ニ於テ、電線ヲ切斷シテ浮標ヲ附

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ス、時ニ前夜來ノ風波益〻烈シキヲ以テ、德積島附近ニ至リテ碇泊シ、同三十一日午後風波收リシヲ以テ、豫テ仁川碇泊場司令部ヨリ回航セル團平船ニ陸揚電線ヲ搭載シテ陸揚ケニ著手セシメシニ、恰モ干潮ニ際セシヲ以テ、沖繩丸ハ、先ツ曩ニ切斷セル線端ト陸揚線トノ接續ヲ了シ、十一月一日朝滿潮ヲ俟チ、團平船ノ電線陸揚工事ヲ了リ、通信所海濱間ハ、其ノ距離短キヲ以テ、海底線ヲ地下ニ導キテ連絡シ、茲ニ白翎島、蔚島間ノ通信連絡完成ス、

沖繩丸ハ、以上ノ工事ヲ了ルヤ、同日直ニ八口浦線ノ蔚島陸揚工事ニ著手シ、同日午後二時新線ノ陸揚工事ヲ了リ、航進シテ敷設スルコト約十海里、線端ニ浮標ヲ附シ、蔚島ニ歸泊シ、翌二日八口浦、鷄島線引揚ケニ著手セントセシモ、風波烈シク容易ニ回復スヘキ見込ナキヲ以テ、先ツ仁川ニ至リ、同市街ノ西南郊外ヲ陸揚地ニ選定シ、同四日蔚島ニ至リシモ、同六日ニ至ル迄風波收ラス、徒ラニ德積島錨地、蔚島間ヲ往復スルノミニシテ、工事ニ著手スルヲ得ス、翌七日風波漸ク收リタルヲ以テ、葛川角ヲ距ル南方約五十二海里ノ處ニ於テ之ヲ切斷シ、葛川角方面ノ線端ニハ、浮標ヲ附シ置キ、八口浦方面ノ線端ニ新線ヲ接續シテ、蔚島ニ向ヒ航進シテ敷設シ、同日午後五時、曩ニ浮標ヲ附シ置キタル同島陸揚線トノ接續ヲ了シ、茲ニ佐世保、大連間ノ通信連絡完成ス、

次テ同船ハ、葛川角ニ向ヒテ在來線ノ引揚ケニ著手シ、同九日略之ヲ了リ、鷄島通信所員及ヒ物品ノ大半ヲ乘セ、同十日蔚島ニ回航シ、同日同島仁川線ノ陸揚ケヲ了リ、翌十一日午前七時仁川ニ向ヒ進航シテ敷設シ、午後三時八尾島ノ東方ニ達シ、電線ヲ切斷シ、同十三日陸揚線トノ接續ヲ了リ、茲ニ京城、蔚島間ノ通信連絡成レリ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

斯テ沖繩丸ハ、同十五日仁川ヲ拔錨シ、翌十六日葛川角附近ニ著シ、同十七日ヨリ葛川角、白翎島間舊線ノ引揚ケニ著手シ、同十八日略之ヲ了リ、於青島陸揚線撤廢工事ノ爲メ白翎島ヲ發シ、同十九日午前三時於青島ニ著シ、同工事ヲ結了シタル後、一旦長崎ニ歸リ、更ニ白翎島、長山列島、鹽大澳間電線ノ引揚ケニ從事シ、三十八年一月之ヲ了ル、

第八目　津輕海峽福山小島間朝鮮海峽竹敷鴻島松眞間竝ニ串木野上甑島江石下甑島長濱間ノ敷設

明治三十七年十月下旬、假裝海底電線敷設船奉天丸ノ艤裝成リタルヲ以テ、山本海軍大臣ハ、豫テ企圖セル如ク、津輕海峽西口福山局ヨリ小島望樓ヘ電線ヲ敷設セント欲シ、大浦遞信大臣ニ照會ノ結果、神谷通信技師ハ奉天丸ニテ之ニ從事スルコトヽナリ、同月二十二日ヨリ長崎ニ於テ所要材料搭載ニ從事シ、同二十七日之ヲ了リ、翌二十八日同港ヲ出發シ、十一月二日函館ニ著シ、警備艦高雄艦長海軍中佐矢代由德ト諸種ノ打合ヲナシ、同三日福山ニ至リ、同町ノ東方凡十町餘ナル渡島國松前郡大澤村根森ヲ陸揚地ニ選定シ、同四日昧爽出港シ小島ニ向ヒタルモ、天候險惡トナリタルヲ以テ、函館ニ歸航シ風波ノ收ルヲ俟チシニ、當時北海ノ天候ハ、不良ノ時季ニ屬シ、快晴ノ期殆ト豫知スヘカラス、仍テ同七日函館ヲ拔錨シタルモ、空シク福山ニ假泊シ、翌八日僅ニ小島ノ周邊ヲ回航シ、豫定ノ陸揚地及ヒ陸線建設ノ地勢ヲ觀察シタル後、福島ニ避難シ、同十日天候稍平穩トナリシヲ以テ出港シ、途次福山ニ於テ人夫十餘名ヲ乘船セシメ、午前十一時小島ニ回航シ、電線ヲ陸揚ケ、午後一時航進シテ敷設シ、同五時福山附近ニ至リタルニ、天候漸

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

次險惡トナリ、陸揚事業ヲ行フ能ハサルヲ以テ、電線ヲ切斷シ、其ノ線端ニ浮標ヲ附シテ、之ヲ海中ニ投シ、函館ニ避難シ、十二日未明、海上稍平穩ナルヲ以テ、福山ニ至リシモ、潮流急激ニシテ風波猶全ク收ラス、碇泊地ト陸岸トノ距離遠クシテ、到底特種淺海線ノ陸揚ケヲ行フ能ハサルヲ以テ、中間線ヲ用フルコト、シ「バルンブイ」及ヒ小船ヲ用ヒテ陸揚ケヲ了シ、兩線端ヲ接合シ了リ、福島ニ假泊シ、同十三日未明出港シ、福山ニ於テ尙人夫數十名ヲ乘船セシメ、小島ニ著シ、陸揚地望樓間陸上線路ノ測量ヲ行ヒタルニ、天候又不良トナリシヲ以テ、人員ノ一部ヲ殘シ、函館ニ避難ス、次テ十五日午前一時同港ヲ出港シ小島ニ回航シ、風雨ヲ冒シテ、陸上ノ工事ニ從事シ、日沒ニ及ヒ全部完成ス、又福山方面陸線ハ、札幌局派遣ノ技手ニ委託シ、既ニ竣工セルヲ以テ、小島望樓、福山間ノ通信連絡茲ニ完成ス、

奉天丸ハ、以上ノ工事ヲ竣リシ後、一旦函館ニ歸リ、更ニ竹敷、鴻島、松眞間竝ニ松眞及ヒ漆原半島間ニ海底線一條敷設、及ヒ松眞ヨリ陸揚地點ニ至ル陸線工事ヲ施行センカ爲メ、同十七日函館ヲ出港シ、横須賀軍港ニ寄港シテ、炭水ヲ補充シ、電線敷設機械ニ修理ヲ加ヘタル後、同二十三日鴻島ニ向ヒ、同二十八日未明鴻島ニ著シ、陸揚地ヲ同島ノ西方ニ選定シ、竹敷ニ至リ、同要港部參謀長海軍大佐小泉鑠太郎ト工事ニ關スル協議ヲ遂ケ、翌二十九日午前三時同港ヲ出港シ鴻島ニ至リタルニ、風波烈シキ爲メ空シク竹敷ニ歸港ス、

同三十日、奉天丸ハ、再鴻島ニ至リタルモ、風波猶收ラス、陸揚事業ヲ爲ス能ハサルヲ以テ、陸揚地望樓間ノ陸線建設ニ從事シ、同日之ヲ了リ、翌十二月一日電線ノ陸揚ケヲ了シ、尾崎ニ向ヒ航

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

進シテ敷設シ、日沒頃同陸揚地附近ニ達シ、電線ヲ切斷シ、之ニ浮標ヲ附シテ海中ニ投シ、竹敷ニ假泊シ、翌二日尾崎ニ至リ、陸揚工事ヲ行ヒ、電線ノ接合ヲ了ス、

次テ同三日、鴻島、巨濟島間敷設工事ノ爲メ、竹敷ヲ出發シ鴻島ニ至リシモ、風波烈シク陸揚工事ヲ行フ能ハサルヲ以テ、巨濟島宮農ニ航シ、同所及ヒ松眞間既設陸上線路ニ、四百听鐵線一條ノ添加工事ヲ行ヒ、翌四日漆原半島及ヒ巨濟島下柳洞門ナル陸軍所管海底電線ノ敷設ニ著手シ、同八日之ヲ了リ、翌九日鴻島ニ至リタルモ、風波依然トシテ强烈ナルヲ以テ、竹敷ニ避泊シ、同十一日竹敷ヲ出港シ、復鴻島ニ至リタルモ、風波猶收ラサルヲ以テ、巨濟島多太灣ニ避泊スルニ至リシカ、翌十二日風波稍收リタルヲ以テ、鴻島ニ到リテ電線ヲ陸揚ケシ、宮農陸揚地ニ向ヒ航進シテ敷設シ、日沒同地ニ達シ、同十三日陸揚工事ヲ了ス、而テ尙鴻島陸揚工事ノ一部未了ニ屬スルモノアルヲ以テ、之ニ從事セントセシモ、天候不良ニシテ、竹敷及ヒ多太灣ニ避泊スルコト五日間、同十九日ニ至リ、波浪猶收ラサルモ風力稍減退セシヲ以テ、鴻島ニ至リ殘工事ヲ終了シ、茲ニ竹敷、鴻島、松眞間ノ通信連絡成レリ、

是ヨリ先キ、八月九日、山本海軍大臣ハ、薩摩國釣掛埼ニ假設望樓ノ設置ヲ令セシカ、同望樓ニハ、電信連絡ナキヲ以テ、十月上旬大浦遞信大臣ニ之カ施設ヲ照會シ、同大臣ハ、之ヲ奉天丸乘組神谷技師ニ命ス、

時ニ奉天丸ハ、竹敷、鴻島、松眞間ノ敷設工事ニ從事中ナリシヲ以テ、同工事ヲ結了スルヤ、一旦長崎ニ歸リ、船體及ヒ敷設機械ニ修繕ヲ加ヘ、所要電線ヲ搭載シ、十二月二十九日長崎ヲ出發

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シ、薩摩國串木野及ヒ上甑島江石ニ至リタルモ、天候不良ニシテ風雨烈シキカ爲メ、何レモ陸揚工事ヲ行フ能ハス、三十八年一月一日午後、天候快晴ニ復スルヲ俟チテ串木野ニ航シ、同二日陸揚工事ヲ了シ、江石ニ向ヒ航進シテ敷設シ、日沒ノ頃同地附近ニ達シ、電線ヲ切斷シ、之ニ浮標ヲ附シテ海中ニ投シ、翌三日陸揚工事及ヒ電線ノ接續ヲ了シ、更ニ下甑島方面線ノ陸揚ケヲナシ、線端ニ浮標ヲ附シ置キ、奉天丸ハ同島ニ航シ、蘆崎附近長濱ヲ陸揚地ニ選定シ、翌四日未明、同處ニ電線ヲ陸揚ケシ、江石ニ向ヒ航進シテ敷設シ、電線ノ接合ヲ了リ、茲ニ望樓線ノ連絡完成ヲ告ク、

第九目　巨文島牛島濟州島間ノ敷設

明治三十七年十二月五日、沖繩丸乘組梶浦遞信技師ハ、大浦遞信大臣ノ命ニ依リ、巨文島、牛島、濟州島間ニ海底電線ヲ敷設シ、且佐世保、八口浦線ヲ巨文島ニ陸揚ケシテ、以上ノ線ト連絡セシメンカ爲メ、長崎ヲ出港シ、翌六日牛島ニ著シ、同七日陸線材料ヲ陸揚ケシテ其ノ架線ヲ了リ、同八日巨文島ニ至リ、陸線工事ニ著手シ、同九日佐世保、八口浦線ヲ引揚ケ、之ヲ切斷シテ兩端ニ浮標ヲ附シ、次テ第一電線ヲ陸揚ケシテ佐世保方面ノ線端ニ接續シ、第二電線ヲ陸揚ケシテ八口浦方面ノ線端ニ接續シ、同十日午前巨文島陸線工事完了セシヲ以テ、望樓ノ通信ヲ開始シ、次テ牛島線ヲ陸揚ケシ了リ、牛島ニ向ヒ航進シテ敷設ス、時ニ電線陸揚地ニ故障ヲ生シタルヲ以テ、巨文島ヲ距ル約六海里半ノ處ニ於テ電線ヲ切斷シ、浮標ヲ附シテ海中ニ投シ、巨文島ニ歸リ、其

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ故障ヲ修理シ、同十一日再同島ヲ發シ牛島ニ至リタルニ、夜來ノ北西風極テ烈シク、陸揚工事ヲ施行スル能ハス、轉シテ濟州島望樓附近ニ至リ、陸線建設ヲ爲サントセシモ、此ノ地モ亦風波ノ爲メ到底事業ヲ行フ能ハス、然ルニ此ノ方面ハ、常ニ風波荒ク好天氣ノ日ハ稀ナルヲ以テ、此ノ地ニ碇泊シテ、時機ヲ待ツヲ得策ト認メ、其ノ附近ニ碇泊シタルニ、同十五日天氣快晴ノ徵アルニ乘シ、陸揚工事ヲ了シ、陸上工事ノ爲メ人員若干ヲ留メ、翌十六日午前零時半牛島ニ向ヒ航進シテ敷設シタルニ、同七時頃ヨリ風波復起リタルヲ以テ、同九時同島附近ニ至リ、電線ヲ切斷シ、浮標ヲ附シテ之ヲ海中ニ投シ巨文島ニ歸航ス、

是ヨリ先キ、上村第二艦隊司令長官ハ、沖繩丸ノ同十一日巨文島ヲ發シテ牛島ニ向ヒシ以來、其ノ消息杳トシテ絶エタルヲ以テ、同十五日竹敷ニ於テ、瓜生第二艦隊司令官ニ此カ搜索ヲ命セシヲ以テ、同司令官ハ、同日午後六時千早艦長海軍大佐福井正義ニ左ノ命令ヲ與フ、

沖繩丸ハ十一日朝巨文島ヲ出テ濟州島ノ牛島ニ向ヒシ以來今ニ何等ノ消息ナシ貴官ハ直ニ出港シテ同船ヲ搜索スヘシ

依テ千早ハ、同日午後七時三十分竹敷ヲ發シテ巨文島ニ向ヒ、同十六日午前八時十三分同島望樓下ニ達シ、同望樓ヨリ、沖繩丸ハ十一日午前五時頃牛島ニ向ヒ航行セシトノ報ヲ得テ、直ニ同島ニ向ヒ、同十一時五十五分同島錨地ニ達シ、我カ運送船青龍丸ノ碇泊スルヲ認メ、同船ニ沖繩丸ノ所在ヲ尋ネ、其ノ巨文島ニ向ヒシヲ知リ、午後零時二十分再巨文島ニ向フ、時ニ風波漸次烈

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シク、加フルニ驟雨ヲ以テシ、艦ノ傾斜三十五度ニ及フ、同三十分雨少シク減シタルトキ、艦首四五海里ノ處ニ於テ、沖繩丸ノ北航スルヲ認メタルヲ以テ、同船ヲ率非、午後三時五十分巨文島南側ノ小灣内ニ投錨ス、

斯テ沖繩丸ハ、巨文島ニ避泊シテ天候ノ回復ヲ俟チシニ、同十九日風力稍衰ヘタルヲ以テ、牛島ニ至リシモ、尚工事ヲ行フ能ハサルヲ以テ、曩ニ陸揚ケセル人員ヲ收容シ、同二十日巨文島ニ歸航シ、同二十一日再牛島ニ至リ、電線ノ陸揚ケヲ了シ、濟州島線ニ接續シ、茲ニ牛島、濟州島間ノ通信連絡成リ、同二十二日濟州島陸揚地附近ニ至リ、曩ニ陸上工事ノ爲メ殘留セル人員ヲ收容ス、

同二十六日、經過報告ノ爲メ一旦巨文島ニ歸リ、翌二十七日牛島ニ至リ、陸上ノ殘工事ヲ終了シ、三十八年一月一日、巨文島線ノ陸揚ケヲ了シ、同島ニ向ヒ航進シテ敷設シ、午後六時過キ同島附近ニ達シ、曩ニ浮標ヲ附シテ海中ニ投入セル電線端トノ接合ヲ了シ、茲ニ巨文島、牛島間ノ通信連絡成レリ、

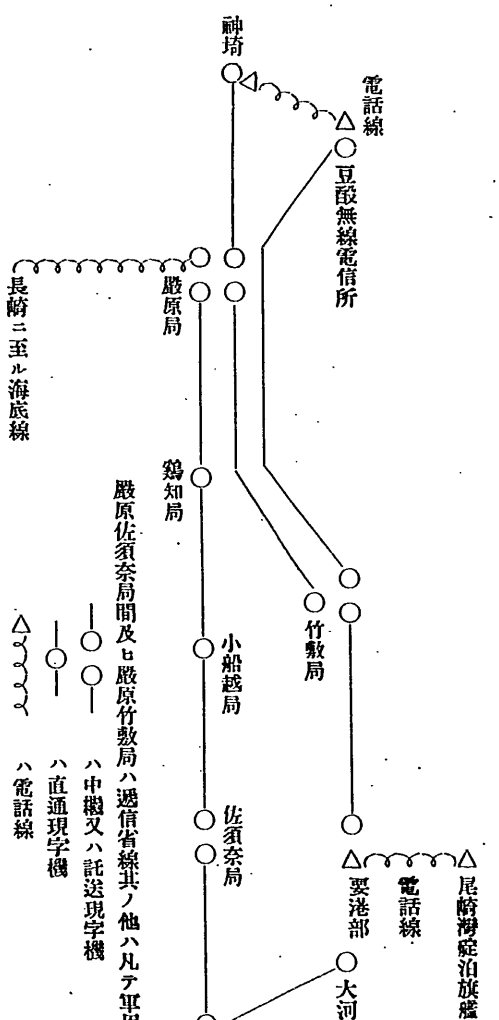
是ニ於テ、巨文島、牛島、濟州島間ノ電線敷設工事完成ス、

第十目　對馬島内電信線路ノ改良

明治三十七年七月十日、竹敷要港部司令官海軍中將角田秀松ハ、對馬島内通信連絡ノ改良ニ關シ、左記ノ意見ヲ伊東海軍軍令部長ニ提出ス、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

對馬島內現在通信連絡



右ノ如キ現在連絡ヲ左ノ通リ改良ヲ要ス

第一、竹敷局ヘ託送ヲ廢シ直接嚴原局ヘ託送スルコト

即チ豆酘竹敷局間直通ノ軍用線ヲ嚴原局ニテ切斷シ同所ヘ器械ヲ据ヱ竹敷局ヲ除ク

第二、佐須奈局ヘ託送ヲ廢シ大河內韓埼ヨリ嚴原迄直通トシ同局ヘ託送スルコト

第三、神埼豆酘間ノ電話ヲ電信ニ改メ神埼豆酘嚴原要港部間ヲ一回線トナシ豆酘及ヒ神埼ヨリ本部ヘ直通スルコト

第四、要港部又ハ望樓ヨリ發スル電報ニシテ長崎局又ハ佐須奈局ニ至ル遞信線ヲ使用スル場合ニ嚴原局ニ託送スルコト

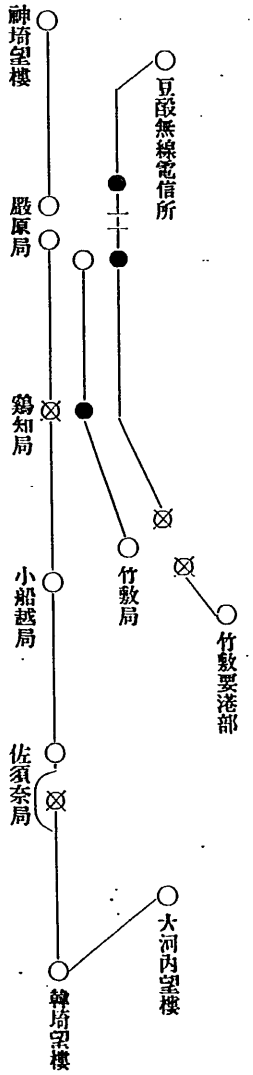
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

依テ山本海軍大臣ハ、大浦遞信大臣ニ照會スルニ、對馬島内ニ於ル通信ノ迅速ヲ期スルカ爲メ、海軍省所管ノ軍用電報ハ、嚴原局ノミニ於テ中繼シ、竹敷局、及ヒ佐須奈局ノ中繼ヲ廢止センコトヲ以テセシニ、大浦遞信大臣ハ、長崎郵便局ヲシテ、左ノ如ク回線變更工事ヲ、急速施行セシム、

一、竹敷要港部同郵便局間軍用線ヲ竹敷郵便局豆酘間軍用線ニ聯絡シタル上本線ヲ嚴原郵便局ニテ切斷シ同局ニ莫爾斯機二座ヲ置キ豆酘嚴原二局所接續及ヒ竹敷要港部嚴原二局所接續各一回線トス

一、嚴原佐須奈間國用線ニ佐須奈大河内間軍用線ヲ聯結シ本線ヲ嚴原小船越佐須奈韓埼大河内五局所一回線トス

回線變更方法略圖



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二節　旅順陷落ヨリ日本海海戰ニ至ル期間ニ於ル電信線路ノ施設

第一目　浦鹽線ノ水源端陸揚ケ及ヒ水源端松田灣間ノ敷設

旅順陷落後、我カ海軍ハ、浦鹽方面ニ對スル作戰ノ必要上、松田灣ニ防備隊ヲ置キ、又陸軍ニ於テハ、北韓軍ノ著シク前進シタル等ノ爲メ、同方面ニ通信連絡ヲ設クルノ必要ヲ生シ、同月上旬山本海軍大臣ハ、寺内陸軍大臣ト協議ノ上、同十九日大浦遞信大臣ニ左ノ照會ヲ爲ス、

作戰ノ必要上別紙要領ノ通リ海底電線ノ連絡ヲ要シ候ニ付右工事實施方貴省ヘ委託致度此段及照會候也

（別紙）

海底電線敷設要領

一、竹邊ニ於テ切斷シタル浦鹽海底線ヲ更ニ水源端附近ニ陸揚ケシテ同地ヨリ他ノ海底線ヲ敷設シ薪島ニ近ク其ノ北方ヲ經過シテ永興灣内長致串里ノ南方約一海里ノ無名灣附近ニ連絡セシムルコト

二、竹邊附近ノ切斷端ヲ陸揚ケシテ竹邊電信所ニ連絡スルコト

三、第一項ノ場合ニハ北九味附近ニ電信所ヲ設クルコト

依テ大浦遞信大臣ハ、以上ノ照會ニ應シ、此カ工事ヲ奉天丸乘組神谷技師ニ命ス、次テ三月二十二日山本海軍大臣ハ、寺内陸軍大臣ニ照會スルニ、以上工事ノ實施ニ伴ヒ、別ニ永方伍、虎島南西角及ヒ葛麻間ニ一線ヲ敷設シ、松田、虎島及ヒ元山ノ一回線トシテ元山ニ連絡セシムルヲ以

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

テ、之ヲ必要ノ向ニ通達セシコトヲ以テス

奉天丸ハ、長崎ニ於テ所要電線及ヒ材料ヲ搭載シ、三月五日同港ヲ出港シ、佐世保ニ寄港シテ望樓材料ヲ搭載シ、同七日鎮海灣ニ著シ、共ニ艦隊ノ掩護ヲ受クヘキ元山防備隊ノ來會ヲ待チシニ、十五日東郷聯合艦隊司令長官ハ、鎮海灣ニ於テ、常磐艦長海軍大佐吉松茂太郎、音羽艦長海軍中佐有馬良橘ニ左ノ訓令ヲ與フ、

一、其ノ二艦ハ首席艦長ノ指揮下ニ於テ明十六日便宜出發シ奉天丸ノ竹邊灣及ヒ水源端ヲ經テ元山ニ海底電線ヲ敷設スルヲ掩護スヘシ

二、竹邊灣水源端ニ於ル奉天丸ノ敷設作業ハ天候ノ許ス限リ各地一日宛ヲ要シ其ノ當地出發ハ明十六日午後一時ニシテ翌朝竹邊灣沖ニ達スル豫定ナリ

三、又元山防備隊ヲ載セタル揚武ハ明後十七日頃當地ヲ出發シ元山ニ赴クヲ以テ間接ニ之ヲモ保護スヘシ

四、奉天丸來十八日頃元山ニ入港セハ當地ニ歸港スヘシ

（聯隊機密第一七九號）

依テ、吉松常磐艦長ハ、右行動中、艦船番號ヲ(一)常磐(二)音羽(三)奉天丸トシ、原速九節、微速五節ト定メ、常磐、音羽ハ十二節ニ對スル汽力ヲ保チ、尚高速力ヲ出スノ準備ヲ爲サシメ、又奉天丸ハ、特令ナケレハ、十七日午前七時、列ヲ離レ竹邊灣ニ至リ、同日午後六時同所ヲ發シ、午後七時迄ニ本隊ニ來會スルコト、十八日午前六時ニ至ラハ、列ヲ離レ水源端ニ至リ、同所ニ於ル任務畢リタル後ハ、適宜ノ針路ヲ取リ元山津ニ向フコト、水源端ニ於ル陸揚事業ヲ補助セシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ムル爲メ、音羽ヲ奉天丸ニ伴ハシムルコト、陸揚事業結了セハ、音羽ハ本隊ニ復歸スヘキコト、奉天丸元山津ニ入リタルコトヲ確メタル後、本隊ハ往路ヲ反航シ鎭海灣ニ向フコト等ヲ豫定ス、

斯テ元山防備隊ハ、準備成リ、同十六日鎭海灣ニ到著シ、奉天丸ハ、同日午後鎭海灣ヲ出發シ、常磐、音羽掩護ノ下ニ竹邊灣ニ向ヒ、翌十七日午前七時列ヲ離レ同灣ニ著シ、既設海底線陸揚地ヲ調査シ、望樓通信員ヲ上陸セシメタル後、午後五時二十分、龍湫岬ノ北微東十五海里ノ地點ニ漂泊警戒セル常磐、音羽ニ合シ、水源端ニ向ヒ、同十八日午前六時同地ノ北東二十海里ニ至リ、音羽ト共ニ列ヲ離レ同地ニ至リ、浦鹽線ノ陸揚地ヲ末茂致ニ、水源端、永興灣間ニ新設スヘキ線ノ陸揚地ヲ浦項又ハ長箭洞ニ豫定シ、音羽ノ補助ヲ得テ、水源端望樓建築材料ノ陸揚ケヲ了シ、長箭洞ニ假泊ス、而テ音羽ハ、同日午後五時十五分、長箭洞月移臺ノ東北東約十六海里ノ地點ニ漂泊セル常磐ニ會シ、事業ノ經過ヲ報告シタル後、共ニ附近ヲ游弋警戒シ、同十九日午前六時十七分長箭洞月移臺ノ北々東十海里ノ地點ニ至リ、停止漂泊セシカ、同八時三十分元山防備隊ヲ載セタル揚武及ヒ新潟丸ハ、右二艦漂泊位置ノ北方約三海里ヲ過キ、元山津ニ向フ、是ニ於テ、吉松常磐艦長ハ、音羽ヲシテ元山津ニ至ラシメ、同艦長ニ命スルニ、奉天丸ハ、豫定作業ヲ畢リ、十九日元山津ニ入ルコト、揚武、新潟丸ノ同地ニ入港シタルコト、常磐、音羽ハ、十九日午後五時元山沖ヲ發シ、二十一日午前中ニ鎭海灣ニ著スヘキ豫定ナルコト等ヲ、聯合艦隊司令長官及ヒ第二艦隊司令長官ニ宛テ、打電スヘキヲ以テセシカ、同九時五十分奉天丸ハ、長箭洞錨地ヲ發シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

元山津ニ向ヒ、同十時常磐ハ、麗島附近ニ向ヒシニ、午後五時四十五分音羽歸リテ列ニ入リシヲ以テ、之ヲ率ヰテ鎭海灣ニ向ヒテ歸航ス、

奉天丸ハ、午後三時三十分元山ニ投錨シ、更ニ松田灣北九味ニ航シ、翌二十日同地通信所用物品及ヒ同通信所ト海底電線陸揚地間ニ要スル陸上線建築用材料ヲ陸揚ケシテ、陸線建設ノ爲メ技手、工夫ヲ上陸セシメタル後、同灣內咸口尾灣ニ航シ、陸揚地ヲ方九味ニ選定シ、陸上工事諸材料及ヒ電線ノ陸揚ケヲ了シ、同二十一日淺海線十三海里ヲ敷設シ、其ノ線端ニ浮標ヲ附シテ海中ニ投シ、水源端浦項ニ航シ、同二十二日電線ヲ陸揚ケシテ、永興灣ニ向ヒ航進シテ敷設シ、翌二十三日午前二時曩ニ浮標ヲ附セル陸揚線トノ接合ヲ了シ、元山ニ回航シテ炭水ヲ補給シ、同二十五日方九味陸揚地ニ回航シ、陸線建築員ヲ收容シ水源端ニ向ヒ、同二十六日浦項陸揚地ニ著シ、海底線ノ最終電氣試驗ヲ行ヒ、同陸揚地及ヒ水源端ニ要スル陸線建築材料ヲ陸揚ケシテ、建築員ヲ上陸セシム、

斯テ水源端及ヒ松田灣間ノ海底電線敷設ハ、完成ヲ告ケシヲ以テ、奉天丸ハ、浦鹽線ヲ捜索セントセシモ、風波ノ爲メ之ヲ行フ能ハス、長箭洞ニ避難シ、翌二十七日風波猶收ラサルヲ以テ、永興灣ニ航シ、方九味及ヒ北九味ニ於テ、陸線建築材料ノ殘品ヲ搭載ス、

同二十九日、奉天丸ハ、再水源端ニ航シ、陸線建築員ヲ收容シ、浦鹽線ノ捜索ニ著手シ、同三十日水源端ヲ距ル約五海里ノ沖ニ於テ、之ヲ捕捉シ得タルヲ以テ、電線ヲ兩斷シ、竹邊方面端ニ新線ヲ接續シ、水源端ニ向ヒ航進シテ敷設（浦鹽端ニハ浮標ヲ附シテ後日引揚ケノ爲メニス）シタルモ、風雨ノ爲メ、陸揚工事ヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

行フ能ハサルヲ以テ、電線ヲ切斷シテ浮標ヲ附シ、之ヲ海中ニ投シ、長箭洞ニ避泊シ、翌三十一日末茂致陸揚地ニ回航シ、電線ヲ陸揚ケシテ、曩ニ浮標ヲ附セル線端トノ接合ヲ了セシモ、偶風波復起リシヲ以テ、長箭洞ニ避泊ス、

爾來天候不良ナルヲ以テ、奉天丸ハ、四月三日元山ニ避難シ、翌四日風波稍收ルヲ待チテ水源端沖ニ航シ、曩ニ浮標ヲ附セル浦鹽方面端ニ新線ヲ接續シ、末茂致陸揚地ノ南方海濱ニ陸揚ケシテ、之ヲ埋沒シタル後竹邊ニ向ヒ、同五日竹邊沖約十海里ノ地點ニ達シ、浦鹽線ノ捜索ニ着手セントセシモ、風波ノ爲メ之ヲ果ス能ハサルヲ以テ、竹邊陸揚地ニ到リ、電線ヲ陸揚ケシテ、之ヲ陸上線ト接續シ、他端ニ浮標ヲ附シ、同六日浦鹽線ヲ捕捉シ得タルヲ以テ、之ヲ兩斷シ、水源端方面ノ線ニ新線ヲ接續シ、竹邊ニ向ヒテ敷設シタルニ、風波俄ニ起リタルヲ以テ、電線ヲ切斷シ、之ニ浮標ヲ附シテ海中ニ投シ、避難ノ爲メ迎日灣ニ向ヒシモ、半途ニシテ天候ノ回復スルヲ認メタルヲ以テ、再竹邊ニ歸航シ、同七日拂曉辛ウシテ兩線端ヲ接續シ了レリ、

是ヨリ先キ、四月一日、上村第二艦隊司令長官ハ、鎭海灣ニ於テ、吉松常磐艦長及ヒ千早艦長海軍大佐石田一郎（三十八年一月七日福井艦長ニ代ル）ニ左ノ訓令ヲ與フ、

一、常磐千早ハ先任艦長指揮ノ下ニ本日午後竹邊灣ニ向ヒ出發シ同地附近ニ於テ奉天丸ノ海底電線敷設事業竝ニ其ノ歸路ノ掩護ヲ爲スベシ

二、奉天丸ハ昨三月三十一日午後水源端ヲ發シ竹邊ニ南下シ三日間敷設事業ニ從事スル豫定ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

依テ常磐ハ千早ト共ニ、同日午後三時三十分鎭海灣ヲ拔錨シ、原速十節ニテ竹邊灣ニ向ヒシニ、同七時絶影島ノ南東方ニ至ルノ頃、北東ノ風波益〻烈シク、千早ハ、艦體ノ動搖甚シク、汽機空轉スルニ至リシヲ以テ、同艦ヲ同島西側ニ避難セシメ、風波ヲ衝イテ航行ヲ續ケ、同二日午前八時、竹邊灣望樓ニ向ヒ奉天丸ノ存否ヲ電問セシニ、三月十七日北上以來之ヲ見ス、トノ返信ヲ得シヲ以テ、迎日灣口冬外串ノ南東ヨリ、蔚山ニ向ヒ海岸ヲ沿航シ、午後一時五分蔚山港ニ入リ投錨ス、而テ千早ハ、曩ニ絶影島西側ニ避泊セシモ、天候益〻惡シク、長濤滾入シ錨泊ニ堪ヘサルヲ以テ、同二日午後錨地ヲ甘來浦ニ移セシカ、夜ニ入リ風力稍衰ヘタルヲ以テ、同三日拔錨シテ蔚山ニ至リ、常磐ニ會ス、（常磐ノ蔚山港ニ在ルコトハ無線電信ニテ知レリ）然ルニ、同日午後三時三十三分吉松常磐艦長ハ、東鄕聯合艦隊司令長官ヨリ左ノ電命ニ接ス、

奉天丸元山津ニ風波ヲ避ケタリ其ノ艦何分ノ令アル迄其ノ地ニ待テ

同四日午後八時三十分吉松常磐艦長ハ、蔚埼望樓ヨリ、同日午後五時水源端發電、奉天丸乘組增田海軍少佐ヨリ常磐宛ノ、明日朝竹濱沖ニ達スル豫定、トノ電報ニ接シタルヲ以テ、五日午前六時出港スルコト、定メ、此ノ旨東鄕聯合艦隊司令長官及ヒ上村第二艦隊司令長官ニ電報シ、翌五日午前六時千早ト共ニ竹濱ニ向ヒ、午後四時三十分同沖ニ達セシニ、奉天丸ハ既ニ同錨地ニ在リ、此ノ日波高キカ爲メ海上作業ヲ行フ能ハストノコトナリ、六日沖合ヲ巡航警戒シ、同夜千早ヲシテ便宜南下シテ風波ヲ避ケ、同七日命ヲ迎日灣ニ待タシメシカ、午後二時十分、天候ヲ顧

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

慮シ千早ヲシテ單獨鎭海灣ニ歸ラシメ、次テ午後三時四十分奉天丸事業結了セシヲ以テ、同船ヲ率ヰ、速力八節ニテ龍湫岬ノ南東微東七海里ノ地ヲ發ス、同八日奉天丸ハ、列ヲ離レ釜山ニ入リ、常磐、千早ハ、相前後シテ鎭海灣ニ歸港ス、

永方伍、虎島、葛麻角及ヒ元山間ノ通信連絡ハ、奉天丸及ヒ元山防備隊ニ於テ施設シ、又元山、松田間ノ陸線ハ、陸軍ニ於テ施設シ、四月九日之ヲ了リ、（第十二部中電信紀要參照）茲ニ此ノ方面ノ通信連絡完成ス、

第二目　佐世保竹敷間ノ敷設竝ニ浦鹽線ヲ舞水端ニ陸揚ケノ計畫

明治三十八年二月以來、我カ聯合艦隊ハ、悉ク朝鮮海峽ニ集中シ、鎭海灣及ヒ竹敷ヲ根據トシテ、東航ノ露國第二太平洋艦隊ニ對シ鋭意準備スル所アリ、此ノ方面ト內地トノ通信ハ、益々頻繁ヲ加ヘ、且瞬時ヲ爭フヘキ緊急電報モ亦尠カラサルヲ以テ、大浦遞信大臣ハ、從來施設シタルモノヽ外、更ニ佐世保、竹敷間ニ專用ノ直通線ヲ施設セント欲シ、奉天丸神谷技師ニ命スルニ、壹岐初山及ヒ對馬率土ケ濱間ノ電線ヲ引揚ケ、之ヲ肥前小友及ヒ壹岐初山（鄕ノ浦）間ニ敷設シ、初山、率土ケ濱間ニハ、白翎島、長山島間ヨリ引揚ケタルモノヲ以テ、之ニ換フヘキヲ以テス、乃チ奉天丸ハ、浦鹽線ノ水源端陸揚ケ及ヒ水源端、松田灣間ノ敷設ヲ了ルヤ、一旦長崎ニ歸航シ、四月十一日、所要電線及ヒ材料ノ搭載、敷設機械ノ修理等ヲ行ヒ、同二十二日同港ヲ出發シ、其ノ途次、五島福江、中通島間ノ海底線ヲ修理シ、同二十五日壹岐初山ニ到リテ、該工事ニ著手シ、五

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

月四日之ヲ了リ、茲ニ佐世保、竹敷間ノ直通線完成ス、

次テ五月上旬、山本海軍大臣ハ、寺内陸軍大臣ト協議ノ末、同十四日大浦遞信大臣ニ左ノ照會ヲ爲ス、

作戰ノ進行ニ伴ヒ更ニ左記要領ノ通リ海底電線ノ連絡ヲ要シ候ニ付右工事實施方貴省ニ委託致度此段及照會候也

一、水源端ニ於テ切斷シタル浦鹽海底線ヲ更ニ舞水端附近ニ於テ切斷竝ニ陸揚ケシ同附近ニ急設スヘキ軍用電信所ニ連絡セシムルコト

一、水源附近ノ陸揚端ヲ水源電信所ニ連絡スルコト

大浦遞信大臣ハ、以上ノ照會ニ應シ、六月六日之ヲ奉天丸神谷技師ニ命セシモ、時ニ露國第二太平洋艦隊ハ、日本海ニ敗滅シ、我カ陸海軍ハ、樺太ノ攻略ニ從事スルニ至リ、同方面ニ海底電線敷設船ヲ要セシヲ以テ、此カ工事ヲ行フニ至ラスシテ、平和克復ニ至レリ、

第三目　對馬島内電信線路ノ獨立

從來、對馬島内各望樓無線電信所ヨリ要港部ニ至ル電信回線ハ、必ス嚴原郵便局ニ於テ、中繼スルコトヽナリ居ルヲ以テ、同要港在泊艦船等ニ於テ、電報送達上、敏速ナル能ハサリシカ、三十八年三月上旬山本海軍大臣ハ、沖ノ島ヨリ竹敷要港部ヲ經テ嚴原ニ至ル通信線ハ、鷄知附近ニ於テ直通トシ、要港部ヲ除クコトヽナセシヲ以テ、同十日角田竹敷要港部司令官ハ、要港部鷄知間

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

不用ノ往復線ヲ利用シ、對馬島内通信連絡ノ改良ヲ企圖シ、之ニ關スル意見ヲ伊東海軍軍令部長ニ提出ス、其ノ要領左ノ如シ、

一、嚴原神山間ノ軍用線ヲ廢シ神山ヲ嚴原神埼ノ回線中ニ置ク

二、要港部嚴原線ヲ嚴原神埼線ニ連絡シ要港部嚴原神山神埼ノ四局一回線トス

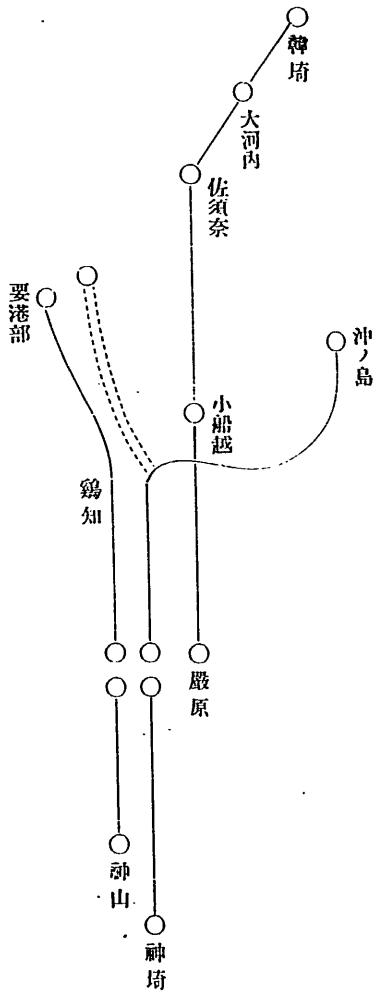
三、舊嚴原神山線ヲ取外シ嚴原鷄知間ニ架設シ要港部鷄知間不用ノ一線ニ接續ス

四、鷄知佐須奈間ニ新規軍用線一條ヲ架設シ一端ハ要港部鷄知間不用ノ一線ニ他端ハ韓埼佐須奈間ノ軍用線ニ接續シ韓埼大河内要港部嚴原間ノ四局一回線トス

右現在及ヒ改良ハ左圖ニ示ス

第一圖

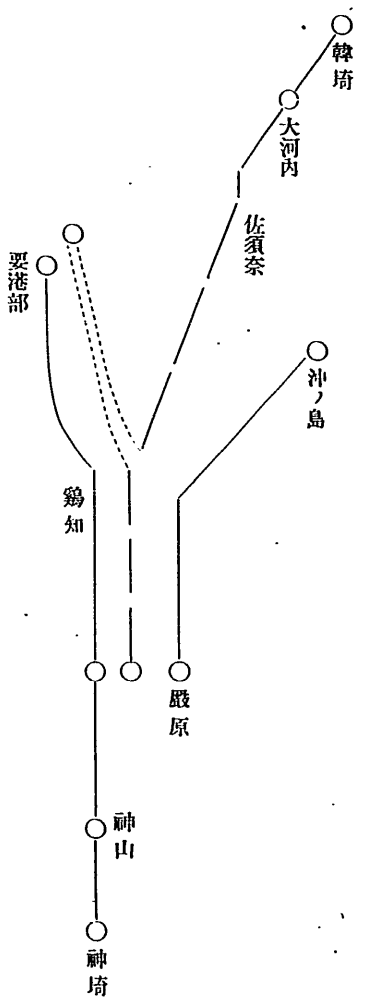
現在連絡



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二圖

改良連絡

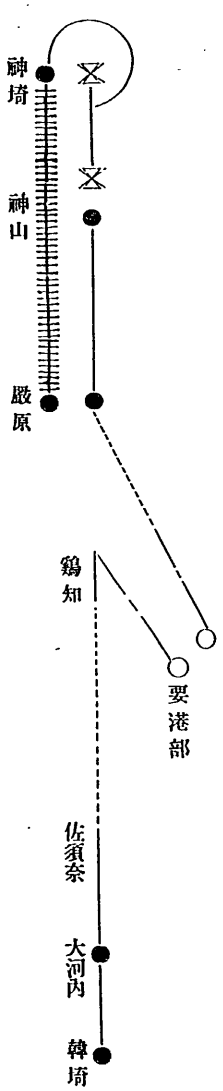


依テ同月伊東海軍軍令部長ハ、增田海軍少佐ヲ派シ實地調査セシメタル結果、山本海軍大臣ハ、對馬島內軍用電信線ハ、之ヲ普通ノ國有線ヨリ獨立セシムルノ必要ヲ認メ、遞信省ニ委託シテ之カ工事ヲ實施シ、五月二十二日落成ス、其ノ變更ノ要領ハ左ノ如シ、

一、嚴原ヨリ佐須奈迄鐵線一條ヲ添架シ其ノ鷄知佐須奈間新線ニ鷄知竹敷要港部間軍用豫備線一條ト韓埼佐須奈間トヲ接續シ竹敷要港部大河內韓埼ノ三局一回線ヲ作ル

一、竹敷要港部鷄知間他軍用ノ豫備線ニ嚴原鷄知間新線嚴原神山間ノ軍用線及ヒ神山神埼間ノ軍用電話線ヲ接續竹敷要港港部嚴原神山神埼四局ノ一回線ヲ作ル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



而テ神埼神山ニハ「ダニエル」電池二十個ヲ使用シ、大河内ニハ、同電池四十個ヲ使用ス、

第四目　津輕海峽陸上線ノ改良

三十八年五月、露國增援艦隊ハ、益〻接近シ、津輕海峽ノ防備急ヲ要スルニ至ルヤ、同月十九日津輕海峽防禦司令部編制セラレ、特種水雷ヲ以テ同海峽ヲ防禦スルコトヽナリ、各望樓及ヒ見張所ト在函館津輕海峽防禦司令部トノ間ニ於ル急速ナル通信連絡ハ、最緊急事項ナルニ拘ラス、從來ノ陸上電信回線ハ、中繼ノ爲メ時間ヲ費シ爲メニ特種水雷敷設船艇ノ行動ヲ澁滯セシメ、戰機ヲ失スルノ虞ナシトセサルヲ以テ、同月二十五日山本海軍大臣ハ、大浦遞信大臣ニ照會シ、同海峽沿岸ノ電信回線ヲ左ノ如ク變更シ、直ニ之ヲ實行ス、

一、惠山假法華間ノ電話通信ヲ惠山假法華尻岸内戸井石崎函館ノ六局一回線トス

二、小島福山江良江差大野函館ノ六局一回線トス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、白神吉岡間ノ電話通信ヲ白神吉岡福島函館ノ四局一回線トス

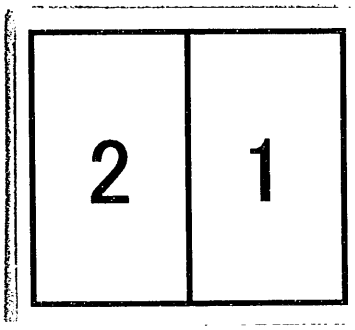
四、龍飛三厩今別上磯函館ノ五局一回線トス

五、尻矢田名部ノ一回線ヲ尻矢田名部大畑下風呂大間佐井函館ノ六局一回線トス

回線變更前後ニ於ル機械裝置及ヒ回線ヲ圖示スレハ左ノ如シ、

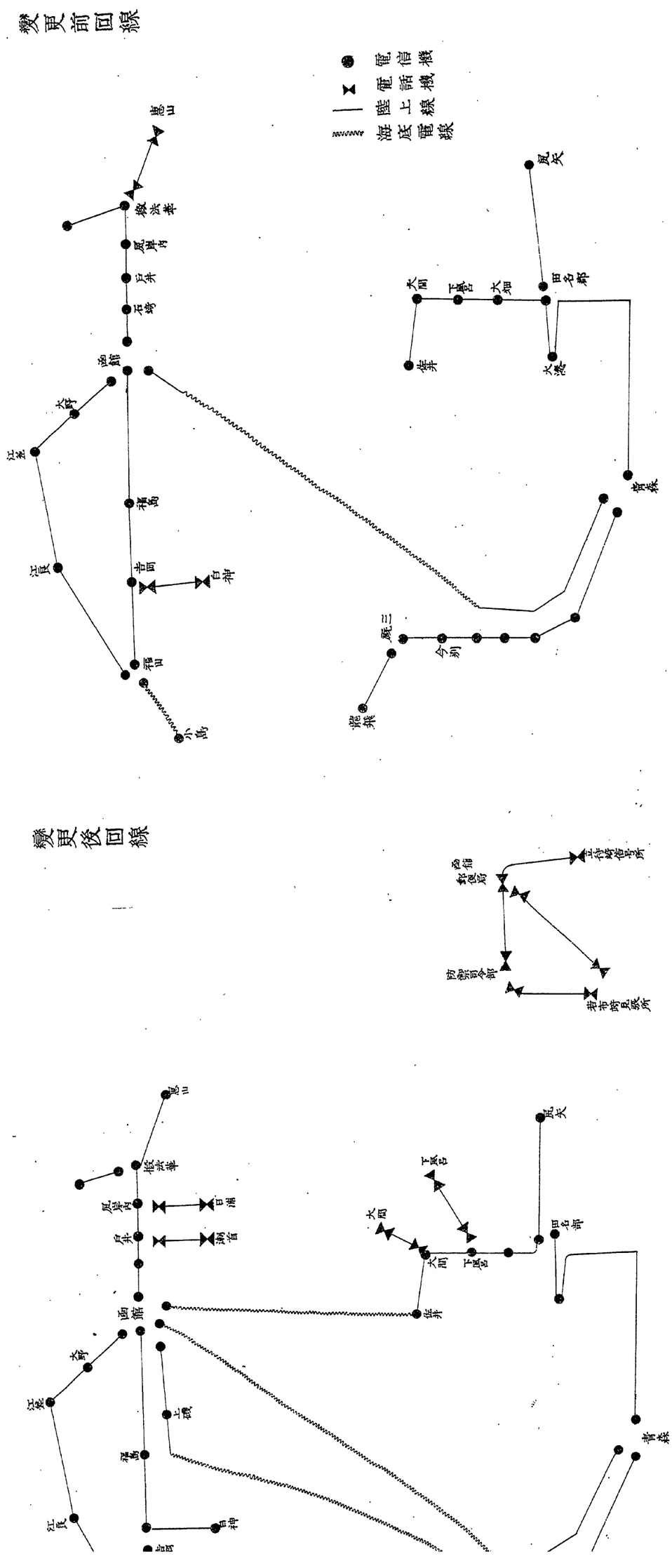
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

分 割 撮 影 ターゲット

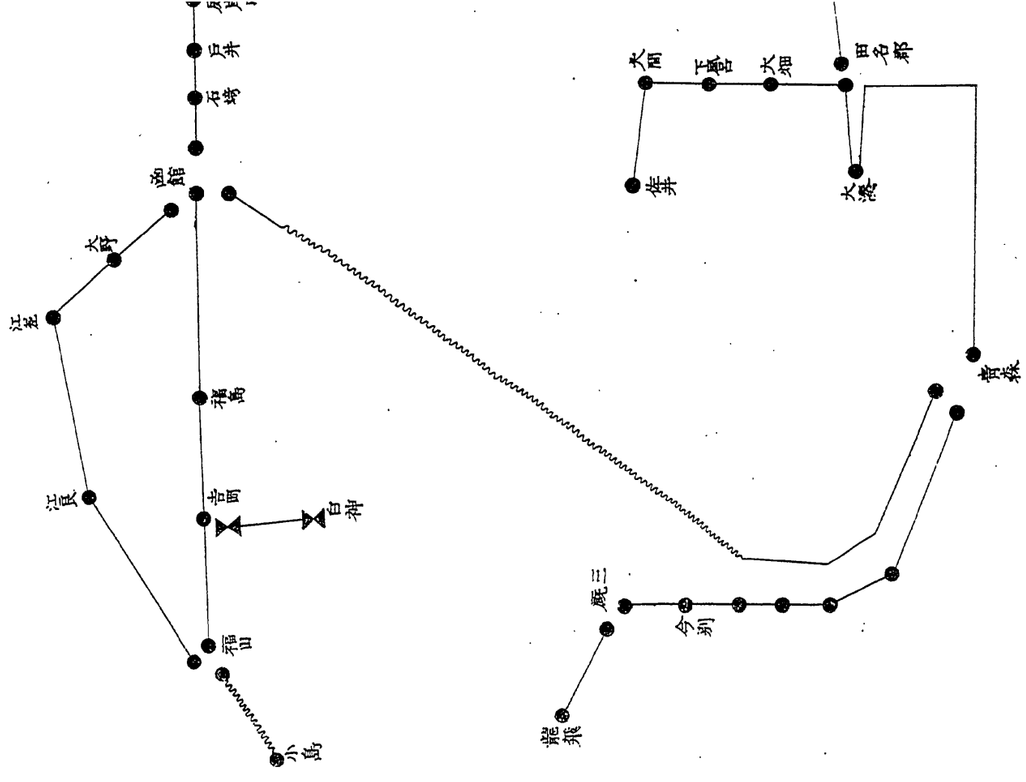
分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	Ａ３判以上のため
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

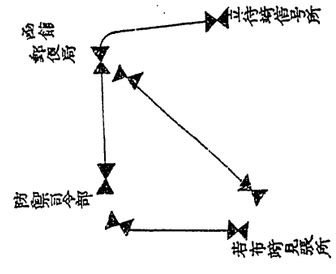
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

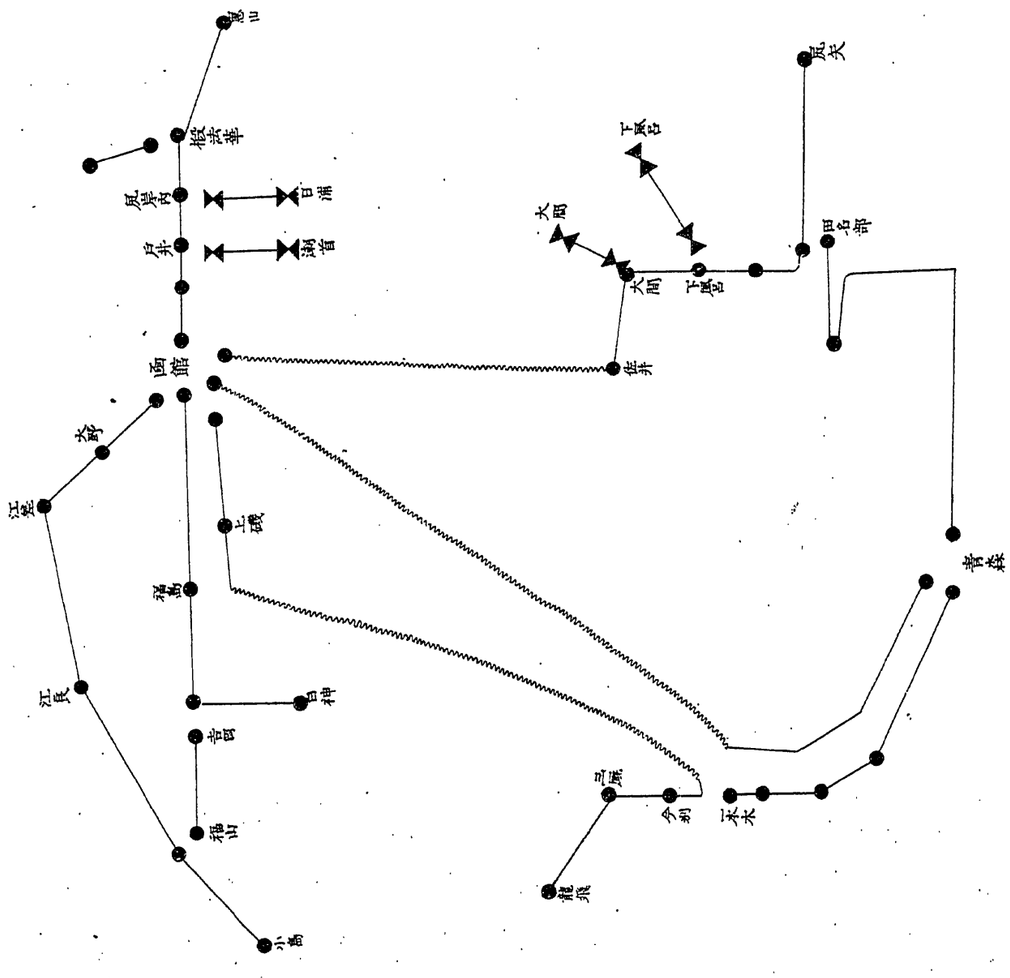
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/







變更後回線

第三節　日本海海戰ヨリ平和克復ニ至ル期間ニ於ル電信線路ノ施設

第一目　稚内コルサコフ間及ヒ稚内海馬島間ノ敷設

日本海海戰ノ後、我カ陸海軍ハ、樺太攻略ノ爲メ、聯合作戰ヲ開始セントスルニ當リ、北海道及ヒ樺太間ニ海底電線ヲ敷設スルノ必要ヲ認メタルヲ以テ、陸海軍大臣ハ、遞信大臣ト協議ノ上、稚内附近ヨリ、樺太近藤岬ヲ經テ、南部上陸地點コルサコフニ至ル線、及ヒ稚内ヨリ樺太海馬島ヲ經テ北部上陸地點アレキサンドロフスクニ至ル線ヲ、陸軍ニ於テ敷設スルコトニ決シ、三十八年六月十六日、大浦遞信大臣ハ、奉天丸乘組神谷技師ニ命スルニ、先ツ稚内附近ヨリ、樺太近藤岬ヲ經テコルサコフニ至ル海陸電線ノ施設工事、及ヒ稚内附近ヨリ海馬島ニ至ル電線敷設工事ニ從事スヘキヲ以テス、

依テ奉天丸ハ、長崎ニ於テ、所要電纜及ヒ諸材料ヲ搭載シ、同二十八日同港ヲ出發シ、七月一日横濱ニ寄港シ、陸線建築材料及ヒ通信所用物品ヲ搭載シ、同三日同港ヲ出發シ、同六日函館ニ著シ、増田海軍少佐及ヒ陸軍工兵大尉渡邊俊治以下、技手、石工及ヒ人夫等之ニ乘船シ、同八日艦隊所在地ナル樺太コルサコフニ向ヒ同十一日、同地ニ著シ、同地ヲ距ル南方約一里ナルポロワン泊ヲ陸揚地ニ選定シ、翌十二日電線ヲ陸揚ケシテ、約四海里敷設シ、之ヲ切斷シテ線端ニ浮標ヲ附シ、又陸線建設用材料ヲ陸揚ケシテ、技手及ヒ工夫ノ一部ヲ以テ、陸揚地及ヒコルサコフ通信所間ノ陸線工事ニ從事セシム、而テ同夜半出發シ、同十三日、近藤岬附近ニ至リシモ、偶濃霧ノ襲來ニ會シタルヲ以テ、其ノ霽ルヽヲ待チ、翌十四日朝近藤岬ニ回航シ、（同十日第三艦隊司令官海軍少將東郷正路ノ率ヰル支隊ハ近

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

藤岬ヲ占領シ附近ノ掃海ヲ了ス）同岬ノ東岸ノ沙地ヲ陸揚地ニ選定シ、「バルンブイ」ヲ使用シテ電線ヲ陸揚ケシ、燈臺ヨリコルサコフニ至ル露國ノ在來線ニ添架シテ、同地ト望樓間ニ陸線ヲ建設シ、日沒ニ至リテ之ヲ了リ、試驗ノ爲メ技手ヲ殘シ、ポロワン泊ニ向ヒ航進シテ敷設シ、同十五日電線相互ノ接合ヲ了シタルヲ以テ、茲ニ最終電氣試驗ヲ行ヒ、陸線建設員ヲ乘船セシメ、夜半出發シ、翌十六日朝近藤岬ニ著シ、稚内方面ノ電線ヲ陸揚ケシテ、敷設スルコト約四海里、之ヲ切斷シテ線端ニ浮標ヲ附シ、海中ニ投シ、陸揚地選定ノ爲メ稚内方面ニ向ヒ、同日稚内ニ著シタルモ、時恰モ風波強烈ナリシヲ以テ、同地ニ投錨シテ天候ノ回復ヲ俟チシニ、同十八日風波稍收リタルモ、濃霧四塞シテ細雨之ニ伴ヒ、航海スル能ハス、同二十日正午天候稍回復セシヲ以テ、拔錨シテ宗谷岬附近ヲ調査シ、宗谷郡泊内村ヲ陸揚地ニ選定シ、翌二十一日電線ヲ陸揚ケシテ、札幌郵便局カ稚内ヨリ架設セル陸線ニ接續シ、近藤岬ニ向ヒ航進シテ敷設シ、同岬附近ニ至リシ頃、濃霧復四方ニ起リシモ、日沒ニ至リ辛ウシテ曩ニ浮標ヲ附シ置キタル線端トノ接續ヲ了シ、最終電氣試驗ヲ行ヒ良好ナル結果ヲ得、茲ニ稚内附近泊内ヨリ近藤岬及ヒポロワン泊ヲ經テコルサコフニ至ル通信連絡完成ス、

次テ奉天丸ハ、稚内附近ヨリ海馬島ニ至ル電線敷設ニ從事センカ爲メ、同二十二日北見國西海岸ニ航シ、調査ノ末、宗谷郡稚内村字類蘭俗稱坂ノ下ヲ陸揚地ニ選定シタル後、海馬島ニ向ヒ、翌二十三日黎明同島ニ著シ、南端ノ沙地ヲ陸揚地ニ選定シ、陸線建設工事ヲ了リ、同二十四日電線ヲ陸揚ケシテ、坂ノ下ニ向ヒ航進シテ敷設シ、日沒ノ頃、同地ヲ距ル約四海里ノ處ニ於テ、電線

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ切斷シ、線端ニ浮標ヲ附シテ之ヲ海中ニ投シ、翌二十五日電線ヲ陸揚ケシテ、札幌郵便局カ稚内ヨリ架設セル陸線ニ接續セシモ、朝來不良ノ天候ハ益〻險惡トナリ、加フルニ用水ノ缺乏ヲ來セシヲ以テ、陸揚線ヲ敷設スルコト約一海里半ニシテ、之ヲ切斷シ、小樽ニ回航シ、同二十八日坂ノ下ニ至リ、曩ニ浮標ヲ附シ置キタル陸揚線ヲ引揚ケ、之ヲ中間線ニ接續シ、約二海里半ヲ敷設シ、海馬島方面ノ線端ヲ引揚ケ、兩線ヲ接續シ、最終電氣試驗ヲ行ヒ、良好ナル結果ヲ得、茲ニ坂ノ下ヨリ海馬島ニ至ル通信連絡完成ス、

第二目　海馬島アレキサンドロフスク間ノ敷設

明治三十八年七月六日、大浦遞信大臣ハ、神谷技師ニ命スルニ、稚内附近ヨリ海馬島ニ至ル海底電線ノ敷設終了セハ、直ニ奉天丸及ヒ第三辰丸ヲ以テ、海馬島ヨリアレキサンドロフスクニ海底電線ヲ敷設シ、且同陸揚地ヨリアレキサンドロフスク軍用通信所ニ至ル陸上電線架設工事ヲ施行スヘキヲ以テス、

依テ奉天丸ハ、稚内、海馬島間ノ敷設工事ヲ了ルヤ、同二十九日小樽ニ回航シ、又第三辰丸ハ、長崎ニ於テ電線ヲ搭載シ、八月一日小樽ニ入港シタルヲ以テ、神谷技師ハ、茲ニ諸準備ヲ整ヘ、同九日第三辰丸ニ轉乘シ、兩船相伴ヒテ小樽ヲ出港シ、同十日海馬島ニ著シ、第三辰丸ニテ淺海線ヲ陸揚ケシテ、曩ニ架設シタル陸線ニ接續シ、アレキサンドロフスクニ向ヒ、航進シテ敷設シ奉天丸ハ、之ニ尾シ海底ノ測量ヲナシツヽ、徐航ス、

是ヨリ先キ、八月九日、片岡第三艦隊司令長官ハ、コルサコフ港ニ於テ、八重山艦長海軍大佐西山

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

實親ニ左ノ訓令ヲ與フ、

一、本日近藤岬ニ到著セシ漁夫ノ言ニ據レハ本島西岸マウカニ敵兵約六百アリ八月四日本邦漁夫一名ヲ殺害シ船積荷ヲ掠奪シ本邦人ハ陸路當方ニ向ヒ避難中ナリト

二、奉天丸第三辰丸ハ本日午前四時BQ地點（編者曰ク小樽ナリ）ヲ出發シ明十日海馬島ヨリアレキサンドロフスクニ向ヒ海底電線敷設ニ從事シ十一日須磨埼沖ニ達スル豫定ナリ

三、其ノ艦ハ明朝當地ヲ出發シ先ツマウカ附近ニ至リ敵兵ニ對シ適宜作動シ又其ノ附近ニ在ル本邦人ノ保護ニ任スルト同時ニ奉天丸第三辰丸ノ電線敷設（須磨埼附近マテ）ノ間接掩護ヲナシ十七日迄ニ當地ニ歸著スヘシ

四、歸航ノ途次沿岸ヲ南下シ成シ得ハ大ナル村落ニハ適宜兵員ヲ陸揚ケ敵兵ノ有無及ヒ其ノ狀況ヲ視察スヘシ又本邦人及ヒ漁舟ニ會セハ敵ノ敗兵ニ對スル警戒竝ニ漁獵禁止ノ警告ヲ與フヘシ

（北遣艦隊機密第一八一號）

依テ八重山ハ、同十日午前九時十五分九春古丹ヲ出港シ、マウカニ至リ、陸戰隊一小隊ヲ上陸セシメ、敵情ヲ探ルト共ニ、電線敷設ノ間接掩護ヲナス、

又同九日、第三艦隊司令官海軍少將山田彦八ハ、アレキサンドロフスクニ於テ、假裝巡洋艦八幡丸艦長海軍大佐川合昌吾ニ左ノ訓令ヲ與フ、

一、海底電線敷設ニ從事シツヽアル奉天丸及ヒ第三辰丸ハ既ニ稚内ト海馬島間ノ業務ヲ了リ更ニ之ヲ北方ニ延長センカ爲メ昨八日後地ヲ發シ十日須磨埼著ノ豫定ニシテ其ノ間八

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

重山之カ掩護ニ任スル筈ナリ

二、其ノ後ニ於ル敷設船ノ豫定行動等ニ就テハ未タ確乎タル通報ニ接セス

三、貴官ハ明十日午前當地ヲ發シ須磨埼ニ至リ奉天丸ニ在ル增田少佐ヨリ詳細ノ意向ヲ聞キ若シ引續キ同埼ト當泊地間ノ敷設ニ從フトノコトナラハ之カ掩護ノ任ヲ八重山艦長ヨリ繼承スヘシ

四、敷設船ノ須磨埼淹留永引ク場合及ヒ同埼以北ニ於ル業務ノ豫定期日等必要ナル事項ハ可成速ニ無線電信ヲ以テ報告スヘシ

依テ八幡丸ハ、同十日午前五時アレキサンドロフスクヲ出港シ、須磨埼方面ニ向ヒ、同日午後三時半同埼ヲ南方ニ航過セルモ、八重山ノ所在不明ナルヲ以テ、針路ヲ反轉シ、旗艦日進（第三艦隊司令官海軍少將山田彦八坐乘）ノ通信距離ニ退キ、更ニ訓令ヲ仰キ、午後六時海馬島ニ向ヒテ航行ス、而テ翌十一日午前三時半ニ至リ、八重山ノマウカニ在ルヲ知リ得タルヲ以テ、直ニ同地ニ向ヒ、同七時八重山ニ會シ、電線敷設船掩護ノ任務ヲ繼承シ、同八時マウカヲ發シ敷設船所在地ニ向ヒ、同十一時同船ニ會シタルニ、同船ハ、須磨埼ニハ電線ヲ陸揚ケセス、引續キ奉天丸ニテアレキサンドロフスク迄敷設スル豫定ナルコトヲ聞知シ、直接掩護ノ任ニ當ル、

斯テ第三辰丸及ヒ奉天丸ハ、假裝巡洋艦八幡丸掩護ノ下ニ敷設ヲ繼續シ、同十二日出羽埼西端ヨリ、南微西約三十二海里ノ位置ニ達セシ時、第三辰丸ハ其ノ海底線ヲ敷設シ盡シタルヲ以テ、線端ヲ奉天丸ニ移シ、神谷技師ハ之ニ轉乘シ、引續キ航進シテ敷設ス、而テ第三辰丸ハ、渡邊陸軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

工兵大尉、技手及ヒ工夫ノ一部ヲ乗セ、陸線工事諸準備ノ爲メ、アレキサンドロフスクニ向ヒテ先發ス、

同十四日午前、奉天丸ハ、鳥海岬（ジョンキエール角）ノ沖約四海里ノ處ニ達シ、電線ヲ切斷シテ第三辰丸ニ移シ、假ニ同船内ニ通信所ヲ設ケ、海馬島間陸軍々用通信事務ヲ開始セシメ、アレキサンドロフスク錨地ニ航シ、鳥海岬ノ南側ヲ陸揚地ニ選定シ、陸上線路ノ建設ニ著手シ、海底線陸揚ケノ準備ヲ爲シ、翌十五日「バルンブイ」ヲ使用シテ電線ヲ陸揚ケシ、航進シテ敷設シ、第三辰丸ノ位置ニ至リ、電線ノ接續ヲ了シ、又同日陸揚線ノ建設及ヒ通信機ノ裝置竣成セシヲ以テ、アレキサンドロフスク通信所ニ於テ通信ヲ開始ス、而テ同日八幡丸ハ、敷設船掩護ノ任務ヲ了ヘ、アレキサンドロフスク艦隊泊地ニ入ル、

以上海馬島ヨリ、アレキサンドロフスクニ至ル海底電線ハ、最初須磨埼ニ陸揚ケスルノ計畫ナリシモ、當時ノ敵情之ヲ許サヽルモノアリシカ、其ノ後チ作戰進捗スルニ及ヒ、引續キ須磨埼陸揚ケノ工事ヲ行フコトヽナリ、大浦遞信大臣ハ、八月二十日之カ工事ヲ奉天丸乗組神谷技師ニ命ス、

奉天丸及ヒ第三辰丸ハ、海馬島ヨリアレキサンドロフスクニ至ル海底電線ノ敷設ヲ了ルヤ、相前後シテ一旦函館ニ歸リシニ、神谷技師ハ前述ノ命令ニ接セシヲ以テ、奉天丸ニ諸準備ヲ整ヘ、同二十三日須磨埼ニ向ヒ、途次海馬島ニ寄航シ、須磨埼ニ赴クヘキ通信手ヲ便乗セシメ、同二十六日須磨埼ニ著シ、同地望樓ヲ距ル北方約十八丁餘ノ處ヲ陸揚地ニ選定シタル後、同地沖

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

七海里内外ノ處ニ於テ、電線ヲ探索シ、之ヲ切斷シテ各線端ニ浮標ヲ附シ、海中ニ投シ、翌二十七日「バルンブイ」ヲ使用シ、電線ヲ陸揚ケシテ海馬島方面ノ線端ニ接續シ、通信ヲ開始シ、次テ同二十八日再電線ヲ陸揚ケシテ、アレキサンドロフスク方面ノ線端ニ接續シ、須磨埼陸揚ケノ工事了リタルヲ以テ、同日奉天丸ハ、同地ヲ出發シ、函館ヲ經テ長崎ニ歸航ス、

第三目　浦鹽線ノ復舊（第十二部中電信紀要附圖第二十六圖第三十五圖第三十六圖參照）

明治三十八年九月、米國ポーツマスニ於ル日露兩國ノ平和談判ハ、著々進捗シ、平和克復ノ望アルニ至リシヲ以テ、同八日、山本海軍大臣ハ、曩ニ志自岐埼及ヒ韓國竹邊、水源端ニ於テ切斷利用セシ浦鹽線ヲ復舊シ、更ニ水源端ヨリ竹邊灣ニ至ル海底電線ヲ新設セント欲シ、之ヲ大浦遞信大臣ニ照會スル所アリ、同大臣ハ直ニ之ニ應シ、奉天丸乘組神谷技師ニ、韓國竹邊、水源端附近ニ陸揚ケセシ浦鹽海底線ノ復舊工事ヲ命シ、沖繩丸乘組梶浦技師ニ、志自岐埼附近ニ陸揚ケセシ、浦鹽海底線ノ復舊工事ヲ命シ、又第三辰丸乘組通信技師鹽谷禎次郎ニ、水源端ヨリ竹邊灣ニ至ル敷設工事ヲ命ス、

沖繩丸ハ、長崎ニ於テ諸準備ヲ整ヘ、九月十七日志自岐ニ至リシモ、天候不良ニシテ風波荒ク、工事ニ著手スルヲ得ス、同二十一日ニ至リ、天候稍回復セシモ風波猶收ラサルヲ以テ、比較的其ノ影響少キ江ノ島附近ニ南下シ、二番線々端ヲ引揚ケ得タルモ、裝鎧著シク腐蝕シ、且激浪急潮ノ爲メ切斷スルニ至リ、同二十二日更ニ之カ引揚ケニ從事シタルモ、故障ノ爲メ遂ニ之ヲ中止シ、線端ニ第一浮標ヲ附ス、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

同二十三日、同船ハ、一番線ノ長崎方面線端ノ捜索ニ著手セシモ、同線ハ、志自岐山ノ西南西約四海里ニ於テ、佐世保、八口浦線ト交叉セルカ爲メ、誤リテ之ヲ引揚ケ、且之ヲ損傷セシメタルヲ以テ、之ヲ修理シ、翌二十三日更ニ南下捜索シタルモ發見セス、同二十四日日沒前ニ至リ、志自岐山ノ南方三海里餘ノ處ニ於テ、一番線ヲ引揚ケ、之ヲ切斷シ、長崎方面線端ニ第二浮標ヲ附シ、北方ノ線端ニ第三浮標ヲ附シテ、志自岐ニ歸泊シ、翌二十五日第三浮標ヲ引揚ケ、北ニ向ヒテ三海里餘ヲ引揚ケタルニ、八口浦線ト交叉シテ引揚クル能ハサルヲ以テ、之ヲ中止ス、乃チ梶浦技師ハ、一旦志自岐ニ歸リ、大浦遞信大臣ニ上申シ、第三辰丸ヲ以テ、一時佐世保、八口浦線ヲ引揚クルコトヽシ、同二十六日沖繩丸ハ、二番線ノ志自岐陸揚線約十五海里ヲ揚收ス、

同二十七日、鹽谷技師ハ、大浦遞信大臣ノ命ニ依リ、沖繩丸ノ志自岐方面浦鹽線復舊工事補助ノ爲メ、第三辰丸ニテ志自岐灣ニ到著シ、梶浦技師ト工事ニ關スル協議ヲ爲セシモ、風波荒クシテ工事ヲ行フ能ハス、空シク天候ノ回復スルヲ待ツコト三日、此ノ間ニ於テ、沖繩丸ハ、一番線ノ志自岐陸揚線約十二海里ヲ揚收ス、而テ十月一日ニ至リ、風波漸ク收リタルヲ以テ、第三辰丸ハ、佐世保、八口浦線ヲ引揚ケ、少シク西方ニ敷設替ヲ爲シ、沖繩丸ハ、一番線ノ浦鹽方面ヲ引揚ケ、新線ト接續シ了リ、翌二日第三辰丸ハ、工事ヲ了リテ長崎ニ歸航シ、沖繩丸ハ、曩ニ設置シタル第二浮標ヲ引揚ケ、一番線ノ長崎方面ヲ引揚ケツヽ、故障ノ點ヲ修理シ、同五日大立島ノ西方約二海里ノ點ニ於テ、船内ノ電線ト接續ヲ了リ、一番線ヲ復舊シ、翌六日江ノ島附近ノ第一浮標ヲ引揚ケ、長崎方面ニ故障アルヲ認メタルモ、江ノ島附近ノ二番線及ヒ志自岐以南ノ一番線ノ狀態ヨ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

リ推測シ、幾個ノ故障存在スルヤ測ルヘカラス、一々之ヲ探索スルトキハ、工事遲延スヘク、且同船ハ、觀艦式ニ關スル東京灣ニ於ル敷設工事ノ爲メ、至急歸東スルノ必要アリタルヲ以テ、其ノ儘船内ノ電線ニ接續シ、二番線ヲ復舊シ、茲ニ浦鹽志自岐方面ノ復舊工事結了ス、

是ヨリ先キ、奉天丸ハ、樺太方面ニ於ル海底電線ノ工事ヲ了ルヤ、函館ヲ經テ、九月六日長崎ニ歸著シ、曩ニ韓國竹邊、水源端附近ニ陸揚ケセシ浦鹽線ノ復舊工事ニ關スル諸般ノ準備ヲ整ヘ、同十三日長崎ヲ出發シ、同十五日竹邊灣ニ著シ、先ツ曩ニ沖繩丸ノ敷設セル竹邊ヨリ志自岐方面ニ向ヒ浦鹽線ニ補足シタル約三十五海里ノ線條ヲ引揚クルコトヽシ、竹邊ヨリ約十海里、志自岐方面線ニ向ヒテ航シ、該線條ヲ探索シ得、之ヲ兩斷シタルニ、張力甚シキカ爲メ、竹邊方面線端ヲ海中ニ脫落シタルヲ以テ、志自岐方面線ノ引揚ケニ著手ス、然ルニ當日午後ニ至リ、風波大ニ起リ、猛雨之ニ伴ヒ、工事危險ナルヲ以テ、電線ヲ切斷シテ浮標ヲ附シ、蔚珍ニ避泊シ、翌十六日黎明浮標ノ位置ニ回航シタルモ、波浪猶高キヲ以テ竹邊ニ航シ、陸揚線ヲ探索シタルニ、是亦果ス能ハサルヲ以テ、蔚珍ニ避泊シ、翌十七日志自岐方面線ヲ引揚ケ、在來浦鹽線トノ接續點ニ達シ、電線ヲ切斷シテ浮標ヲ附シ、曩ニ海中ニ殘留セシメシ浦鹽線ヲ探索セシモ、之ヲ發見スルコト能ハスシテ、鯨砂ニ假泊シ、同十八日之ヲ探索シ得タルヲ以テ、切斷シテ、南方線端ニハ浮標ヲ附シ、北方電線ヲ揚收シ了リ、次テ同十九日、竹邊、水源端間ノ電線ヲ引揚ケンカ爲メ、竹邊陸揚地ヨリ約二海里弱ノ處ニ於テ、電線ヲ探索シ得テ之ヲ切斷シ、竹邊方面線端ニハ浮標ヲ附シ、第三辰丸ニ於テ擔任スル竹邊、水源端間ノ敷設工事ノ便ニ供ス、而テ水源端方面線七海里ヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

引揚ケ、前日設置シタル志自岐方面線端ノ浮標ニ向ヒテ敷設シ、同二十日之カ接續ヲ了シ、曩ニ浮標ヲ附シ置キタル殘留浦鹽線ノ浮標ニ達シ、其ノ殘線ヲ引揚ケ、茲ニ竹邊方面ノ復舊工事ヲ了リ、水源端ニ向ヒ、同二十一日同地ニ著ス、

是ニ於テ、奉天丸ハ、曩ニ三十八年四月、假ニ陸揚ケシ置キタル浦鹽方面線ノ引揚ケニ著手シ、中間線ヲ辿リテ浦鹽線ニ達シ、同線約二海里ヲ引揚ケ、針路ヲ南方ニ轉シ、在來ノ浦鹽線路ニ之ヲ敷設シ、線端ニ浮標ヲ附シ、翌二十二日竹邊方面線ヲ捕捉シテ切斷シ、水源端陸揚地方面ノ線端ニハ、浮標ヲ附シテ、第三辰丸ノ擔任セル水源端、竹邊間ノ敷設工事ノ便ニ供シ、更ニ竹邊方面線ヲ引揚ケ、在來ノ浦鹽線路ニ達シタルヲ以テ、針路ヲ轉シ、引揚線ヲ敷設シ、浦鹽方面線端ニ設置シタル浮標ニ達シ、相互ノ接續ヲ了シ、茲ニ水源端方面ノ復舊工事ヲ了リ、浦鹽線ノ復舊工事完成ス、

奉天丸ハ、右工事ヲ了ルヤ、竹邊ニ航シ、同二十三日曩ニ脫落シタル志自岐方面陸揚線條ノ陸揚ケヲ了シ、茲ニ浦鹽線ノ復舊工事ハ、全ク完結ス、然ルニ水源端、竹邊間海底電線新設ノ命ヲ受ケタル第三辰丸ハ、鹽谷技師之ニ乘シ、九月十四日長崎ニ於テ、諸準備ヲ整ヘ同十七日同地ヲ出港シタルモ、天候險惡ノ爲メ、志自岐港及ヒ釜山ニ寄港シ、同二十日竹邊ニ向ヒ、翌二十一日午前七時、前日奉天丸ノ設置シタル陸揚線端ノ浮標ニ達シ、線端ヲ引揚ケ、望樓ト通信及ヒ電氣試驗ヲ試ミタルニ、成績良好ナリシヲ以テ、船內搭載ノ線端ニ接續シ、水源端ニ向ヒ航進シテ敷設シ、翌二十二日午前一時半水源端沖ニ達シ、曩ニ奉天丸ノ設置シタル陸揚線端ノ浮標ニ達シ、線端ヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

引揚ケ、望樓ト通信及ヒ電氣試驗ヲ行ヒタルニ、成績良好ナリシヲ以テ、午後五時半、其ノ線端ト敷設シ來リシ線端トノ接續ヲ了シ、茲ニ竹邊、水源端間ノ新通信連絡成リ、第三辰丸ハ、長崎ニ向ヒテ歸航ス、

第四目　鬱陵島リヤンコールド松江間ノ敷設竝ニ水源端ニ於ル電線ノ接續

明治三十八年六月二十四日、山本海軍大臣ハ、大浦遞信大臣ニ照會スルニ、作戰ノ進行ニ隨ヒ、更ニ松島（鬱陵島）竹島（リヤンコールド）及ヒ隱岐高崎山各望樓間ニ、海底電線ノ連絡ヲ要スルヲ以テ、此ノ際先ツ松島、竹島間ノ工事ヲ委託致度、其ノ工事著手ノ時機等ニ關シテハ、更ニ協議スヘキ旨ヲ以テセシカ、次テ十月八日、以上ノ工事中、松島、竹島間ニ敷設ノ電線ハ、之ヲ松島北假設望樓ニ連絡セシメ、竹島、高崎山假設望樓間ノ連絡ハ、之カ必要ナキニ至リタルヲ以テ、更ニ同島ト出雲國松江附近ノ間ニ海底電線ヲ敷設シ、之ヲ松江郵便局ニ連絡シ、同局ト松島北假設望樓間一回線ノ通信工事ヲ委託セシニ、遞信大臣ハ、右照會ニ應シ、之ヲ奉天丸乘組神谷技師ニ命シ、又松江附近陸揚地點ヨリ松江郵便局ニ至ル陸上線ノ架設ハ、之ヲ廣島郵便局ニ命ス、

奉天丸ハ、十月十日長崎ニ於テ右命令ニ接シタルモ、松島附近ハ、其ノ水深千尋以上ニ達スル處尠カラサルヲ以テ、之ヲ實測スルノ必要アリ、而テ該船裝置ノ測深器ハ、三百尋以上ノ測量ヲ爲ス能ハサルヲ以テ、沖繩丸ヨリ二千尋ノ測量線ヲ借受ケ、其ノ捲取車ヲ假設スルコト、シ、同港ニ於テ諸準備ヲ整ヘ、同二十二日同港ヲ出發シ、翌二十三日出雲國千酌既設海底線（隱岐ニ至ル）陸揚

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

地ニ著シ、神谷技師ハ廣島郵便局在勤ノ技手ニ會シ、工事上ノ協議ヲ爲シ、翌二十四日千酌ヲ發シ、同地松島間ノ測量及ヒ竹島ノ周圍沿岸ノ實査ヲ遂ケ、同二十六日松島ニ著ス、此ノ行動ニ於テ測量セシハ、二十七箇所ニシテ、其ノ最深ノ水深ハ千四百二十五尋ニ達シ、底質概ネ沙礫殼ノ類ニ屬シ、又竹島ハ大洋中ノ一孤島ニシテ、其ノ周圍ハ悉ク斷岸絶壁ナルヲ以テ、大風ノ際、波濤ノ岸ヲ嚙ンテ奔騰センコト疑フヘカラサルモノアルヲ以テ、該船ハ、最細密ニ其ノ周圍ヲ調査シタル後、其ノ西岸ノ一地點ハ、海濱及ヒ陸上共ニ大石ノ纍々タルモノアルモ、其ノ海底ハ、一海里ヨリ二海里ノ間、水深百尋内外、海底モ亦沙礫殼ニシテ比較的安全ナルヲ認メ、此ノ附近ヲ通過シテ電線ヲ敷設シ、必要ニ應シ陸揚ケニ便ナラシムルコトニ定メタリ、

斯テ奉天丸ノ松島ニ著スルヤ、直ニ陸上工事ニ著手シ、海上ノ事業ハ、天候險惡ノ徵アルヲ以テ之ヲ見合セタルニ、夜半ニ至リ風雨猛烈ト爲レルヲ以テ、同二十七日午前四時避難ノ爲メ釜山ニ向ヒ、翌二十八日同地ニ著シ、松島望樓ニ依賴シテ、同地ノ風力及ヒ海上ノ模樣等、一日三回電報セシムルコトヽシ、天候ノ回復ヲ俟チシニ、同三十一日ニ至リ、稍平穩ニ向フトノ報ニ接セシヲ以テ、即日釜山ヲ發シ、翌十一月一日松島ニ著シ、電線ヲ陸揚ケセシニ、陸上工事モ亦此ノ日ヲ以テ結了セシヲ以テ、海陸兩線ヲ接續シ、翌二日午前五時ヨリリヤンコールドニ向ヒ航進シテ敷設シ、豫定ノ航路ヲ採リテ同地ヲ通過シ、同三日午後一時出雲國千酌陸揚地ノ沖約十海里ノ處ニ至リシニ、前部及ヒ中央貯線池ノ電線盡キタルヲ以テ、其ノ線端ニ浮標ヲ附シテ、之ヲ海中ニ投ス、時ニ朝來險惡ノ徵アリシ天候漸次不穩トナリシヲ以テ、隱岐國浦郷ニ避難シ、後艙ニ在

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ル海底線ヲ貯線池ニ積替ヘ、翌八日風波稍收ルヲ待チテ、黎明同地ヲ出港シ、千酌陸揚地ニ至リ電線ヲ陸揚ケシ、航進シテ敷設スルコト十海里餘ニシテ、曩ニ投入セル浮標位置ニ達シ、相互ノ接續ヲ了シ、茲ニ松島、松江間ノ敷設ヲ了シ、該船ハ松島ニ至リ、同九日最終電氣試驗ヲ行ヒシニ、良好ナル成績ヲ得タリ、

是ヨリ先キ、十月十五日平和克復シ、水源端望樓廢止セラレタルヲ以テ、同地ヨリ松田灣方面海底線ニ連接シアル望樓浦項間ノ陸上線ヲ廢シ、更ニ同地末茂致陸揚地ヨリ海底線ヲ敷設シ、之ヲ海中ニ於テ、在來松田灣ニ至ル海底線ニ接續スルコトヽシ、大浦遞信大臣ハ、之カ工事ヲ神谷技師ニ命ス、同技師ハ、松島、竹島、松江間工事中、十一月七日隱岐國浦郷ニ於テ、右電命ニ接シタルヲ以テ、同工事ヲ完了スルヤ、同九日松島ヨリ水源端ニ向ヒ、翌十日同地浦項ニ達シ、其ノ沖合約二海里ノ位置ニ於テ、既設電線ヲ引揚ケ浮標ヲ附シ置キ、末茂地陸揚地ニ航シ電線ヲ陸揚ケ、航進シテ敷設シ、曩ニ設置シタル浮標ニ達シ、之ヲ引揚ケントセシモ途中切斷セシヲ以テ、敷設シ來リタル新線ヲ切斷シテ浮標ヲ設置シ、水源端ニ碇泊シ、翌十一日更ニ數回ノ探線ヲ行ヒシモ、該方面ハ潮流急激ニシテ、船ノ操縱意ノ如クナル能ハサルノミナラス、松田灣方面ニ至ル九海里餘ノ間ハ、古線ヲ使用シアルヲ以テ、電線ノ裝鎧殆ト腐蝕シ、爲メニ捕捉スル毎ニ切斷セリ、依テ松田方面新線敷設ノ位置ニ於テ探線スルニ決シ、同十二日其ノ位置ニ於テ之ヲ捕捉シ、之ニ新線ヲ接續シ浦項沖ニ向ヒ航進シテ敷設シ、曩ニ浮標ヲ附シ置キタル線端ニ達シ、相互ノ接續ヲ了シ、茲ニ水源端ニ於ル電線海中接續工事完成ス、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第四節　敵ニ通スル電線ノ處置

明治三十七年一月上旬、日露兩國ノ時局、漸ク切迫スルヤ、海軍軍令部ハ、參謀本部ト協議シ、機ヲ見テ敵ニ通スル電線ヲ切斷センコトヲ決ス、乃チ旅順、營口線及ヒ北京、恰克圖線ノ切斷作業ハ、之ヲ陸軍ノ擔任ト爲シ、義州線、元山以北線及ヒ旅順、芝罘線ノ切斷ハ、之ヲ海軍ニテ擔任スルコトニ定メ、（本篇第一章參照）同年一月上旬、伊東海軍軍令部長ハ、在京城公使館附吉田海軍少佐ニ命スルニ、一令ノ下、直ニ義州線及ヒ元山以北線ノ切斷ヲ決行スヘキ準備ヲ爲シ置クヘキヲ以テシ、同十八日伊集院海軍軍令部次長ハ、同少佐ニ向ヒ、電線切斷ノ件ハ、一度切斷スルモ直ニ修繕シ得ルモノナルヲ以テ、屢場所ヲ換ヘテ切斷シ、是非四五日間ハ不通ナラシムル樣、計畫シ置カレタシト電報ス、

次テ二月四日、參謀總長元帥陸軍大將侯爵大山巖ハ、在北京陸軍砲兵大佐青木宣純ニ電訓シ、八達嶺附近ニ於テ、北京、恰克圖間ノ電線破壞ヲ實行セシメシカ、翌五日露國トノ外交關係ヲ斷絶スルヤ、同參謀總長ハ、在營口陸軍歩兵大尉川崎良三郎ヲシテ、旅順、營口線ヲ破壞セシメ、同日義州線ヲ、翌六日午前二時元山以北線ヲ、共ニ切斷ス、（同六日吉田少佐ハ伊集院海軍軍令部次長ヨリ切斷セル電線ハ十日以後ハ開通スルモ差支ナキ旨電報ニ接セシヲ以テ同十五日夕義州線及ヒ元山以北線ヲ共ニ開通セシム）

是ヨリ先キ、同三日、朝鮮海峽監視ノ任ニ在リテ、將ニ鎭海灣ノ占領ニ從事セントスル第三艦隊司令官海軍少將細谷資氏ハ、同灣及ヒ釜山等ニ於ル我カ軍事行動ヲ祕スルカ爲メ、釜山及ヒ馬

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

山ニ於ル韓國電信局ヲ處分スルノ必要ヲ認メ、愛宕ヲシテ馬山電信局ヲ占領セシメ、且釜山陸軍守備隊ニ交渉シ、同地ノ電信局ヲ占領スルコトニ内定シ、同六日之カ實行ヲ命ス、依テ同艦長海軍中佐久保田彦七ハ、同日同艦乗組海軍少尉藤谷孝之介ヲ馬山浦帝國領事三浦彌五郎ノ許ニ派シ、告クルニ、陸戰隊ヲシテ電信局ヲ占領セシムルヲ以テ、電信技手及ヒ通譯一名ヲシテ、海岸上陸地ニ於テ右陸戰隊ニ合セシムル樣取計ラハレンコトヲ以テシ、尚在留露人ノ取締ニ關シ、其ノ處分法ヲ諮リ、一方陸戰隊ヲ編制シ、同指揮官海軍中尉天野六郎ニ左ノ命令ヲ與フ、

一、其ノ官ハ本艦馬山浦ニ碇泊ノ後陸戰隊ヲ率ヰ馬山浦ニ上陸シ韓國電信局ノ占領ヲ實行スヘシ

二、占領後ノ處分ニ就キテハ馬山浦領事及ヒ郵便局長ト協議ノ上斷行シ其ノ情況ヲ報告スヘシ

三、馬山ニ於ル敵情ハ武器ヲ有スル整兵ノ如キ抵抗力ナシト雖モ韓人一時ノ感情ニ制セラレ暴行ヲ爲スヤモ計リ難シ貴官ハ警戒ヲ嚴ニシ本艦トノ氣脈ヲ通スルコトニ留意スヘシ

四、韓人ノ感情ヲ害スルコトハ向後陸軍ノ行動ニ妨害ヲ來ス基因タルヲ以テ占領ノ方法ハ可成穩和ノ手段ヲ取ルヘシ

五、本艦ハ今夜零時出港シ海門艦長ニ占領ノ情況ヲ報スルノ要アルヲ以テ本艦歸航マテハ特ニ警戒ヲ嚴ニスヘシ

六、本艦碇泊ノ後ハ一分隊ヲ殘留セシメ殘餘ハ歸艦セシムヘシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

七、本艦ト陸上トノ通信ノ方案ヲ定メ報告スヘシ

斯テ陸戰隊ハ、同日午後四時馬山ニ上陸シ、同五時電信局ヲ占領シ、韓人局員四名ヲ殘シ、通信ヲ嚴禁ス、（釜山電信局猶占領セラレサルヲ以テ我カ通信通セサルニ依ル）（備考文書參照）

同夜久保田愛宕艦長ハ、艦内ニ於テ、三浦領事ト面談協議スル所アリ、卽チ左ノ如シ、

一、露國人ノ當地ニ在留スルモノハ本艦ノ陸戰隊員一名ト巡査トヲ監視ニ附シ彼ノ發信等ノ有無ヲ嚴密ニ監査シ若シ不穩ノ行動ヲ認ムルトキハ直ニ拘禁スルコト

又軍事的行動ノ祕密ヲ保ツノ必要ナキニ至ルマテ當地ヲ去ラシメサルコト

三、韓人ノ誤解ナキ爲メ廣ク告示ヲ爲シ此ノ際帝國ハ露國ニ對シ軍事行動ヲ執ルノ外韓國及ヒ其ノ人民ニ對シテハ他意ナキコトヲ知ラシムルコト

次テ同七日夕、釜山陸軍駐箚隊長ハ、細谷第三艦隊司令官ノ依賴ニ應シ、同地電信局ヲ占領シ、馬山浦トノ通信ヲ開ク、

然ルニ我カ海軍ニ於テハ、聯合艦隊カ愈〻敵ニ對シテ最初ノ打擊ヲ與フルマテハ、努メテ行動ヲ祕スルノ方針タリシヲ以テ、山本海軍大臣ハ、以上兩電信局占領ノ報ニ接スルヤ、久保田愛宕艦長ニ向ヒ、直ニ之ヲ解除シ、且外國人ヲ迫害シ、猥ニ韓國陸上ニ兵力ヲ用フルカ如キ行動ヲ爲ササル樣注意スヘキ訓諭ヲ與ヘ、尙之ヲ細谷第三艦隊司令官ニ傳ヘシメシカ、此ノ時既ニ我カ陸戰隊ハ歸艦シ、馬山電信局ハ之ヲ陸軍守備隊ニ引渡セシ後ナリシヲ以テ、久保田愛宕艦長ハ、山本海軍大臣ニ左ノ如ク返電セリ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其ノ一、二一番電報（編者曰ク海軍大臣ノ發セシ電報番號）ハ直ニ細谷司令官ニ傳ヘタリ釜山港ノ電信局占領ハ元司令官ノ希望ヲ傳ヘ釜山ニ在ル守備隊之ヲ占領シタリ又馬山電信局モ亦昨夜釜山ヨリ陸軍守備隊ノ一部來リ引渡濟既ニ陸軍ノ手ニ歸セリ右報告ス

其ノ二、馬山電信局占領ノ手段ニ就テハ最穩ナル方針ヲ取レリ又在留露國人ノ處置ニ就キテハ馬山浦領事カ外務省ヨリ訓令ニ接シタル主眼ハ本職ノ意見通リナレハ之ヲ決行シ帝國ノ軍事的行動ヲ他ニ洩スヘカラストノ告知ヲナシ之ヲ監視シタリシモ別ニ強迫ヲ加ヘタルニアラス

是ニ於テ山本海軍大臣ハ、寺内陸軍大臣ニ交渉シ、其ノ結果、遂ニ之ヲ解除スルニ至レリ、

同十二日、伊東海軍軍令部長ハ、芝罘滯在中ノ大本營海軍參謀森海軍中佐ニ電訓スルニ、芝罘、旅順線ハ、之ヲ我ニ利用スルノ見込ナクンハ切斷スヘキヲ以テス、

是ヨリ先キ、此ノ海底電線ハ、或時機ニ際セハ、之ヲ切斷スルノ豫定ナリシヲ以テ、森海軍中佐ノ前任者タル海軍軍令部參謀海軍大佐山下源太郎ハ、電線破壞ニ要スル要具ヲ、同港在泊軍艦浪速ヨリ借受ケ、又同艦一等水兵木曾小源太ヲシテ之ヲ保管セシメ、竊ニ準備スル所アリシカ、三十七年一月森海軍中佐ノ代ルニ及ンテ、更ニ必要々具ヲ調辨シ、清國山東省沿岸ニ出漁セル潛水器械ヲ應用セル海鼠採集船一隻（潛水者船夫一組附）ヲ買收シテ、準備スル所アリシニ、二月十二日前記電訓ニ接シタルヲ以テ、先ツ海鼠採集船ヲシテ芝罘島ノ碇泊船少キ地點ニ至ラシメ、前記木曾一等水兵及ヒ一等兵曹前川駒太郎、二等信號兵曹渡邊庄作（以上二名ハ其ノ後チ浪速ヨリ增派セシモノ）ニ命スルニ、探海及

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヒ破壞要具ヲ竊ニ芝罘島ニ送リ、夜ニ入リ同船ニ積ムヘキヲ以テシ、特ニ左ノ訓令ヲ與フ、

一、中立地ニ在リテ軍事行動ヲ敢爲セントスルニハ須ラク愼重ノ態度ト嚴正祕密ヲ恪守セサルヘカラサルハ勿論ニシテ主トシテ共ニ作動スヘキ船夫等ヲシテ内外人ト一切交際セシメサルコトニ留意スヘシ

二、探海及ヒ發火艇トシテハ海鼠採リ船ヲ使用ス依テ本船カ當中立港口出入及ヒ事業ノ實施ハ必ス夜陰ニ乘スルコトヽシ務メテ人目及ヒ行逢船ヲ避クルコト

三、芝罘ヨリ東西各地ニ導カル、海底電線ハ數條アリテ市ノ東端「ケーブル、ハウス」ヨリ崆峒島ニ至ルノ間ハ一ニシテ雙岩附近ニ及ンテ各其ノ目的ノ方向ニ分離シ敷設セルモノナレハ切斷セントスル旅順線ヲ探求セントスルニハ雙岩ノ北方ニシテ約雙岩ト北岩ノ中間海面ニ於テセサルヘカラス故ニ夜間港口ヲ出ツルニハ崆峒島燈臺ノ射光ヲ避ケ迂回潛行シテ先ツ北岩附近ニ漕出スヘシ

四、北岩附近ニ達セハ「グラプネル」附探海索ヲ曳キ北岩ヲ艉ニシテ西方ニ橈走シ同岩ヨリ西方約五海里以内ノ海面ヲ探求スヘシ

五、電線ト覺シキモノヲ鉤捉セシトキハ其ノ位置ニ船ヲ止メ浮標ヲ投下シ探海索ヲ緊張シテ直ニ潛水夫ヲ入レ其ノ物體ヲ檢セシメ電線タルコトヲ知ラハ其ノ敷延方面ヲ探ラシメ其ノ方向正ニ南北ニシテ太サ約四心裝鎧電線ニ等シキモノタルコトヲ確メナハ其ノ線ニ爆發藥附探海錨ヲ投下シ之ヲ緊曳シ安全距離ヲ距テヽ發火切斷スヘシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

六、切斷ヲ確認セハ時ヲ移サス急キ復命スヘシ

斯テ萬端ノ準備整ヒタルヲ以テ、同十二日夜、森海軍中佐ハ、海鼠採集船ヲシテ、目的地ニ向ハシメタルニ、天候不穩ニシテ風波アリ、且降雪甚シクシテ咫尺ヲ辨セス、加フルニ潮流急激ニシテ、百方努ムル所アリシモ、目的ヲ達セス、同十五日昧爽歸來ス、是ニ於テ森海軍中佐ハ、日本汽船狹貫丸（登簿噸數八十一噸、芝罘威海衛間定期汽船ニシテ開戰後芝罘ニ在リテ出航セス森中佐ハ豫テ同船長ニ內旨ヲ含メ置ケルモノ）ヲ用フルコトヽシタルモ、稅關ノ監視アリテ、同船ヲ出港セシムルニ便ナラサルヲ以テ、苦心ノ末、風波ヲ避クルカ爲メ、已ムヲ得ス單ニ錨地ヲ移ストノ口實ヲ以テ、同船ヲ芝罘島泊地ニ至ラシメ、同日午後九時夜陰ニ乘シ、稅關ノ看守ヲ脫シ、自ラ同船ヲ指揮シ、海鼠採集船ヲ曳キ、潛行シテ港外ニ出テ、豫定海面ニ至リ、電線ヲ鉤捉シ、爆發藥ヲ投下シテ發火ヲ試ムルコト二回ナリシモ、發火セス、爲メニ探海要具凡テ消耗スルニ至リシヲ以テ、後計ヲ爲サンカ爲メ、一旦芝罘ニ歸港ス、偶芝罘在留ノ潛水ニ巧ナル日本鍛冶職ノ生島某ナルモノアルヲ知リ、領事ヲ介シ密談ノ末、十七日午後九時同人ヲ伴ヒ、再狹貫丸ニ乘シテ出港シ、前夜鉤捉セシ地點ニ赴キ、電線ヲ鉤捉シ、探海索ヲ同船ノ「ケプスタン」ニ導キ、十分之ヲ緊張シ、海中ニ於テ鋸ヲ用ヒ之ヲ切斷ス、時ニ同十八日午前八時十五分ニシテ、其ノ地點ハ、崆峒島燈臺ヲ略南西微南ニ、雙岩ヲ略南東ニ見ル處ナリ、

然ルニ其ノ後、芝罘、旅順間ニハ、尚一條ノ電線アリ、トノ情報アリシヲ以テ、伊東海軍軍令部長ハ、我カ海底線ノ缺乏ヲ補充スルト同時ニ、敵ノ通信遮斷ヲ確實ニスルカ爲メ、之ヲ採收スルノ必要ヲ認メ、五月七日東鄕聯合艦隊司令長官ニ左ノ訓令ヲ與フ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

貴官ハ爲シ得ハ沖繩丸ヲシテ中立國領海外ニ在ル芝罘旅順間敵ノ海底電線ヲ採取セシムヘシ

依テ同十三日、東鄉聯合艦隊司令長官ハ、第三地點（裏長山列島）ニ於テ、高砂艦長海軍大佐石橋甫ニ左ノ訓令ヲ與フ、

一、其ノ艦ハ沖繩丸ヲ護衛シ明十四日午後六時發シ旅順方面ヘノ往航區域ヲ通過シ明後日朝午前九時頃旅順沖約二十浬ニ達シ沖繩丸ノ海底電線引揚ケ事業ヲ掩護スヘシ

二、明後十五日午後四時頃ニ至レハ右引揚事業ヲ中止セシメ共ニ南方ニ航シ長山列島附近ニ假泊シ更ニ十六日午前切斷點ニ來リ引揚事業ヲ續行セシムヘシ

三、芝罘ヨリ約十五海里ノ點ニ至レハ引揚ケヲ止メ當地ニ歸航スヘシ

四、第一戰隊ハ明後日ノ直接封鎖ニ從事ス其ノ艦ハ毎ニ之ト無線電信ノ連絡ヲ保ツヲ努ムヘシ

五、芝罘ニ近ツカハ夜中ハ平常ノ如ク航海燈ヲ點スルヲ可トス

是ニ於テ沖繩丸（增田海軍大尉之ニ乘組ム）ハ、高砂掩護ノ下ニ、同十五日朝老鐵山ヨリ南々東ノ東十四海里ノ處ヨリ、十海里ヲ採收シ、（曩ニ森海軍中佐ノ切斷シタル線條）更ニ假裝砲艦ヲシテ、疑ハシキ殘リノ一線ヲ切斷セシメント欲シ、先ツ在芝罘森海軍中佐ニ其ノ有無ヲ問合セタルニ、同中佐ハ、大本營ヲ介シ、芝罘、旅順間ニハ、曩ニ二月中旬切斷シタルモノヽ外、他線ナキヲ斷言ス、ト返電シタルヲ以テ、增田海軍大尉ハ、艦隊ト協議シ、其ノ作業ヲ取止ム、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三十八年、日本海々戰ノ後、樺太方面ノ作戰進捗シ、其ノ北部上陸隊ノアレキサンドロフスクニ上陸ヲ開始スルヤ、第三艦隊司令長官海軍中將片岡七郎ハ、同島ト對岸トノ間ノ通信ヲ遮斷セント欲シ、七月二十五日アレキサンドロフスクニ於テ、第一驅逐隊司令海軍大佐藤本秀四郎ニ左ノ訓令ヲ與フ、

貴官ハ第一小隊ヲ率非便宜出發シ間宮海峽南部ノ偵察ヲ試ミ爲シ得ハポゴビ岬ヨリ對岸ニ敷設セル海底電線ヲ切斷シテ二十八日中ニ歸著スヘシ

依テ藤本司令ハ、吹雪及ヒ春雨ヲ率非、同日アレキサンドロフスクヲ發シ、翌二十六日間宮海峽ニ入リ、ポゴビ沖ニ投錨シ、直ニ電線破壞隊及ヒ掩護隊ヲ編制上陸セシメシニ、同隊ハ、海陸接合點ニ於テ、電線ヲ切斷シ、又電信機ヲ破壞シ、敵ノ遺棄セル小銃二梃ヲ鹵獲シ、同日午後五時十分歸艦ス、當時電信局卓上ニハ電信用紙等アリテ、數分前迄ハ電信ノ發受ヲ爲セシモノヽ如シ、

今戰役中三十八年一月及ヒ同六月ニ於ル軍用電信連絡ヲ示セハ左圖ノ如シ、（以上有線電信ニ關シ戰役中大本營ノ命ニ依リ終始電線敷設監督ノ任務ニ服セシ增田少佐ノ提出ニ係ル日露戰役電信紀要ハ第十二部附錄文書中ニ掲ク）

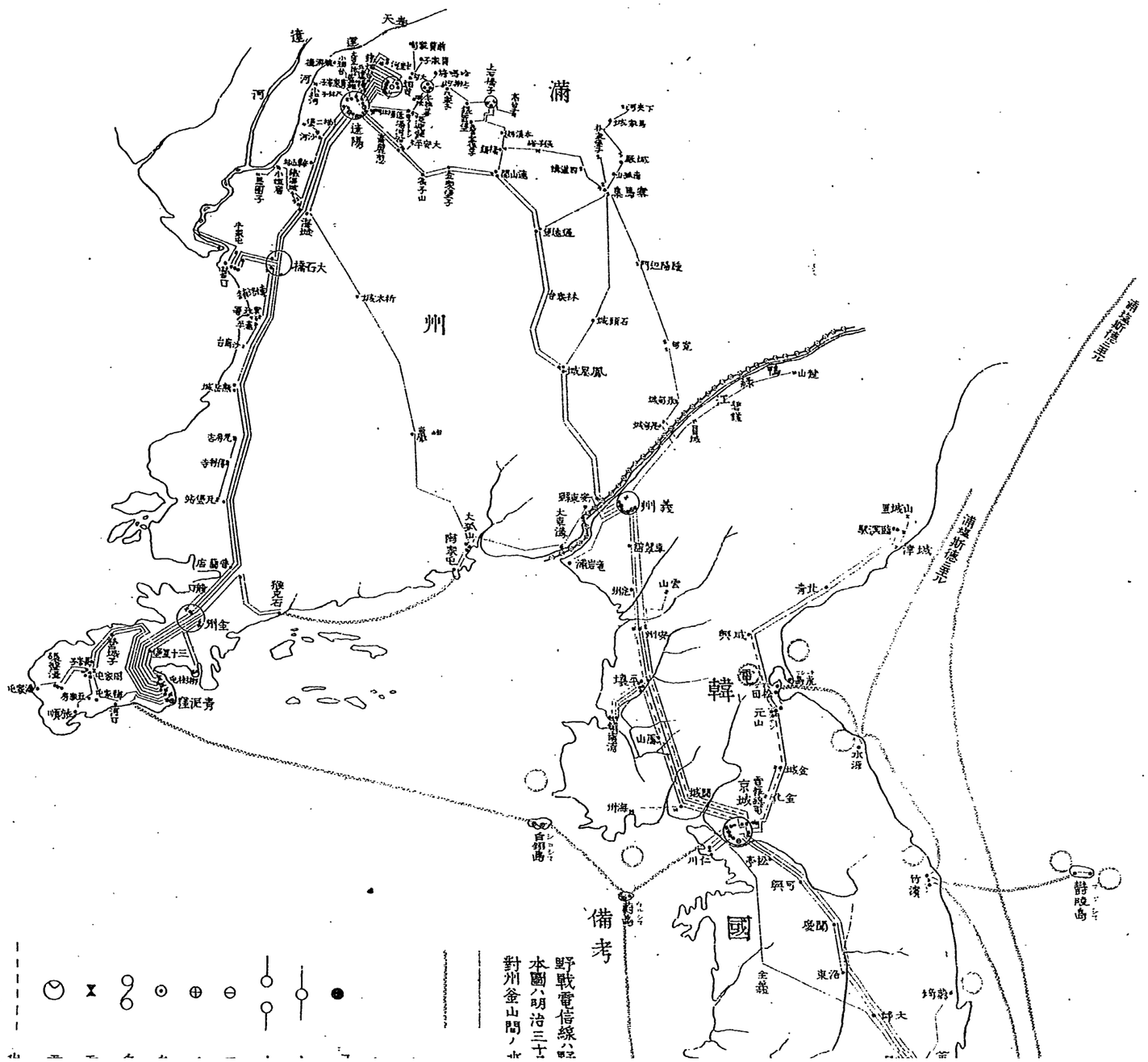
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

分割撮影ターゲット

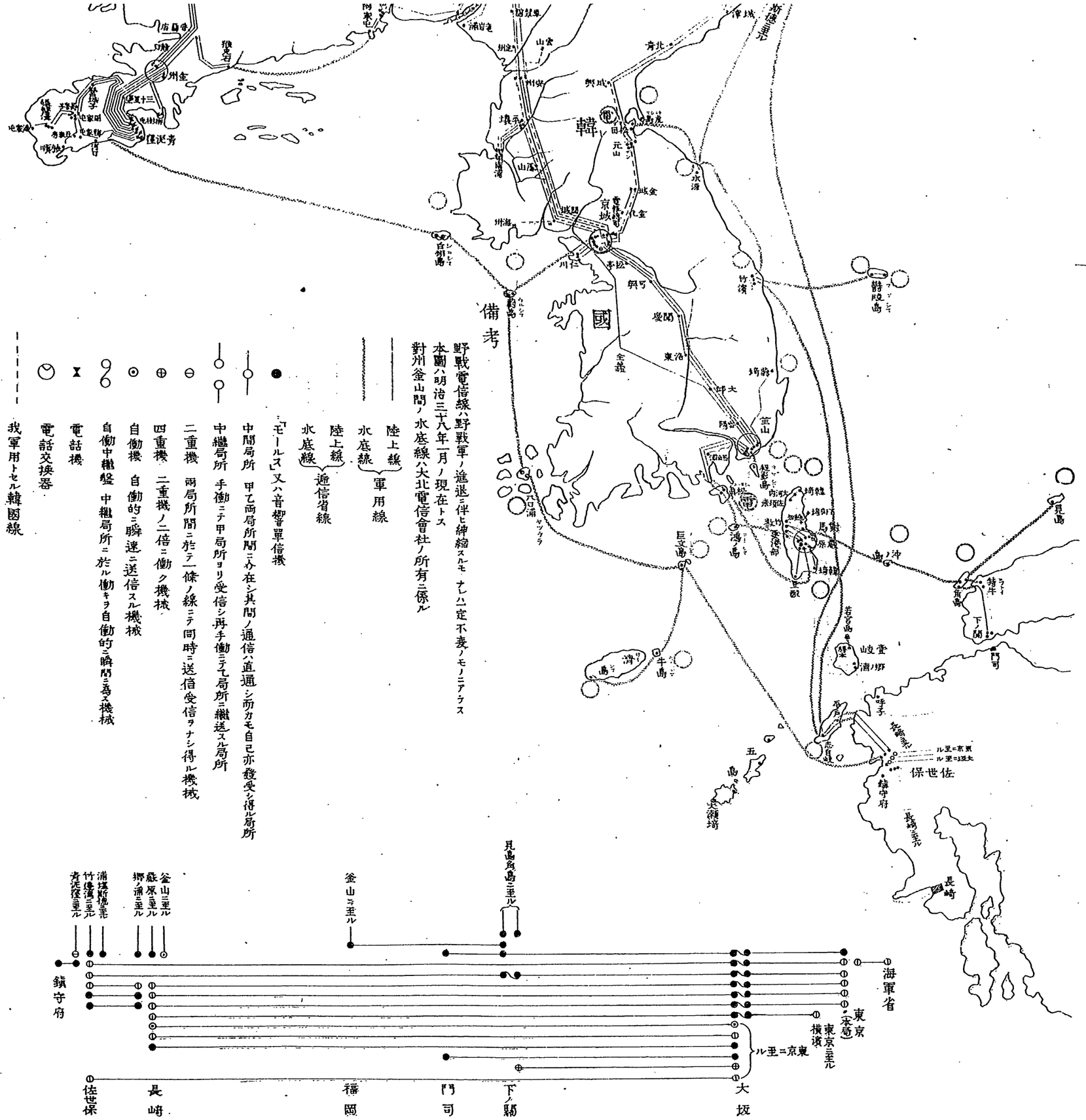
分割した部分の撮影順序	1 2
分割撮影した理由	A3判以上のため
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

軍用電信連絡一覽圖



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/



備考

野戰電信線ハ野戰軍ノ進退ニ伴ヒ伸縮スルモナレハ一定不変ノモノニアラス

本圖ハ明治三十八年一月ノ現在トス

對州釜山間ノ水底線ハ大北電信會社ノ所有ニ係ル

陸上線 水底線 軍用線

陸上線 水底線 逓信省線

「モールス」又ハ音響單信機

中間局所　甲乙両局所間ニ介在シ其間ノ通信ハ直通シ而カモ自己亦發受シ得ル局所

中繼局所　手働ニテ甲局所ヨリ受信シ再手働ニテ乙局所ニ繼送スル局所

二重機　兩局所間ニ於テ一條ノ線ニテ同時ニ送信受信ヲナシ得ル機械

四重機　二重機ノ二倍ニ働ク機械

自働機　自働的ニ瞬速ニ送信スル機械

自働中繼盤　中繼局所ニ於ル働キヲ自働的ニ瞬間ニ為ス機械

電話機

電話交換器

我軍用トセル韓國線

明治三十八年一月

大本營海軍幕僚

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第三章　無線電信

第一節　開戰前ニ於ル無線電信

第一目　無線電信ノ研究

明治三十年夏「マルコニー」式無線電信法ノ始テ本邦人ニ知ラルヽヤ、遞信省電氣試驗所長工學博士淺野應輔ハ、遞信大臣子爵芳川顯正ノ旨ヲ受ケ、同省通信技師松代松之助ヲシテ之カ研究ニ從事セシメ、同年冬東京月島ニ於テ之カ實驗ヲ試ミ、豫期ノ成績ヲ得テ、翌年十二月其ノ實驗ノ結果ヲ公示セリ、之ヲ本邦ニ於ル電波式無線電信應用ノ嚆矢トス、然ルニ遞信省ハ、當時ノ無線電信ヲ以テ、使用ノ區域狹小ニシテ效果尠キモノト認メ、終ニ其ノ研究ヲ中止セントセシカ、我カ海軍ハ、該電信ノ軍事上將來極テ必要ナルヲ察シ、三十三年二月九日、山本海軍大臣ハ、海軍中佐外波內藏吉ニ無線電信調査委員長ヲ命シ、海軍大尉田中耕太郎ニ同委員ヲ命シ、別ニ松代通信技師ニ同委員ヲ囑託シテ、之カ調査ニ從事セシメ、次テ同三月七日第二高等學校教授理學博士木村駿吉、海軍教授ニ任セラレタルヲ以テ、同九日又同教授ニ之カ委員ヲ命セリ、爾來此等諸員ハ、專心研究ニ從事シ、三十四年九月四日從來實驗シ得タル結果ヲ以テ、山本海軍大臣ニ報告シ、同大臣ハ同年十月十八日無線電信機ヲ我カ海軍ノ兵器ニ採用シ、（之ヲ便宜上三十四年式無線電信機ト稱ス）同十一月十三日無線電信通信取扱規則（備考文書第一號參照）ヲ定メタリ、然レトモ當時該機ノ通信距離ハ、三十哩ヲ出テサルニ、諸外國特ニ英國海軍ノ如キハ、顯著ナル成績ヲ得タルノ報屢我カ國ニ到ルヲ以テ、我カ海軍ニ於テモ益〻之カ研究調査ヲ爲スノ必要ヲ認メ、三十四年十二月ヲ以テ、外波

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/